愛國婦人
愛國婦人會機關
愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり
電話番町五百二十番

◎本號には愛國婦人會會長岩倉公爵家の家庭を寫眞版附錄とす

社說

天長節

近く四十年來我が國は、國家の運命に關する大試驗に屢々出遇ひたり。維新の改革も今でこそ、維新の改革と事もなげに言へど、罷り違へば、日本は何うなりしか分らず、それを立派に切り拔けて、今の立憲君主國は出來たり。明治二十七八年の日清戰爭も、濟んでこそ無造作の如く思へ、當時は隨分の心配にて、降つて湧いたる國の難儀に外ならず、されどこれも勝利に終りては、後は一段の國の繁昌、先づ重荷が下りたと思ふ間もなく、今度は退引ならぬ日露の戰爭。元寇の役を目前にて、國家危急存亡の大事、勝つたればこそ、斯うして世界の一等國と國民の肩身も廣けれ、萬一敗けてもすれば、此頃はお互に何うあるべきか、思へば身の毛もよだつほどなり。此の如く建國以來稀有の危き出來事に、僅か此四十年一度ならず、二度ならず出遇ひて、何時も美事に切り拔けて、層一層と大なる日本になり行くは、これ決して偶然にあらず、これには大に理由あることなり。國民の奮發、軍人の勇武、上下一致の努力に由るは勿論なれども、それは尙第一の理由にあらず、第一の理由は、なほ其奧にあるなり、平たく言はゞ、畏くも 天皇陛下の在せばなり、維新以來の國家の隆興、國民の發展には、千百の原因あらん、理由あるべし、然れども其原因の原因、理由の理由は、之を此平明なる事實に求むるの外なきなり、國民の奮發も、軍人の勇武も、上下の一致も、唯 陛下を念し、陛下に歸依し、陛下の御稜威に由りてのみ、出て來れるなり。爾他千百の原因、理由は、唯其分出のみ末流のみ、注釋のみ。今日維新以來の大變は、孰れも昔の夢となりて、天下泰平の世とはなりたれ、それは大砲の音がせず、銃劍のかち合はざるまでにて、平和の戰爭は年毎に激烈なり、而して此戰爭にも亦勝利を占めて、日章旗が太陽と共に世界に輝き渡るの將來を信じて疑はざる所以は、一に國民が陛下の御稜威の下に働く者なりとの強き恃みある信念を有すればなり。而して斯る信念は何れの國民も有し得るものにあらず、實に我が國民の特權なり、唯一の特權なりと知らずや。陛下天長の佳節に遇ひ、所思を述べて陛下の萬歲を祝し奉る。

（六面菊慈童の記事を參照すべし）

近き務を忘る可らず。

昔し西洋に天文學者あり、或る夜天を眺めて途を行けるに、誤て溝に落ちたり、老婆見て之に諭げて曰く、汝未だ地を知らずして、先づ天を伺はんとす、此墜落ある所以なりと。睫毛の先きは見へずして、富士は見へるの理窟、人は兎角近きを忘れて遠きを望むものなり。人の着物に皺があるの、髷が捩れて居るのといふまへに、先づ我が振り如何にと顧るべし。招待れた時の御飯に生粒があつたを吹聽したくば、先づ自分の焦げ飯の手際を考ふべし。家政が下手とくさす本人が、內を豚小屋のやうにして居ては、困り者なり。他所の子供の仕付を氣にするより、先づ我が子の行儀を直すべし。彼所の娘の着物が贅澤なら、內の娘のあの帶は如何にと注意せよ。慈善のために音樂會へ行くほどの深切あらば、先づ內の下女を勞はるべし。親類の困つて居る者は見向きもせずして、新聞の困つて居る者には、名のために施しするも、順序が違ふやうなり。食事も、洗濯も、子供の世話も放つて置いて內を留守にして、有志者となつて外ばかり駆け廻られては、日本の家庭は暗となるべし。印度の飢饉も飢饉なれど、赤兒のお乳を忘るべからず。近き義務を忘れて、遠き事に氣が飛んでは、誰れ彼れなけれど、取り分け婦人の務めは、滿足に行へるものにあらず、戰爭に勝ちたりとも、大日本となりたりとも、足許を忘れず、上調子とならず、最近の務めより掛りて、着々として進み行くべし、是を外にしては、國も家も繁昌するの工夫はなきものなり。

善の注射

近世醫學の進歩は、注射法を行ひて、疾病の苦痛を鎭め、時には既死を回生することあり、一滴の藥液とて中々侮るべからず、善は小なりとも必ず行ふべし、これ社會の惡菌を殺す注射液たればなり。小善にても絕へず注射し居らば、社會は遂には善に化すべし。

運動

秋は運動の好時季なり、春も運動には好けれど、陽氣の端にて、長く運動すれば、往々鼻血を出し、頭痛のすることあり、秋は之に反し、天地冴へ渡りて、心地すが〳〵しく、運動には最も適當の時なり、今や秋の最中にて學校には運動會頻りに行はれ、對校競技も盛んなり。されど其運動會らしきものは、不相變男子の學校の運動會は兎角見てくれの一方にて、見かけは綺麗なれども、一向力が入らず、運動會よりは展覽會といふ方寧ろ適切なるが如し。國家は筋肉逞しうして、丈夫なる子を幾人も生むが如き婦人の養成をこそ、女學校には待ち設け居れ、巧みに踊る婦人に望みを囑するものにあらず。婦人なりとて豆腐の如き身體にあらず、力を入れる運動を日頃なさしめて、運動會も見答へあるものとなし、根氣の續く體力の續く所を見せざるべからず。それには、英國の女學校に行はるゝホッケーの如き遊戲を盛にすべし。ホッケー位は婦人もせざるべからず、婦人は弱い者として、餘りに恐れ勞はるが故に、益々弱くなるなり。今の婦人の弱さは決して自然にあらず、鍛ふれば、まだ〳〵強くなれる體軀なり、其積りにて運動せざるべからず。

以上は女學校の生徒への注文なれども、一般の婦人に對しては、尙それ以上の注文あるなり。女學生は力は入らずとも、兎に角多少運動はなしつゝあれども、一般の婦人は、運動は前世より緣なきものの如く、始めより極めて居るより、誠に仕末にゆかず、英米の婦人の立派なる體格を見、其由て來る所あるを見て、轉た羨望に堪へざるなり。願くは一般の婦人が、人の運動を見物するの一方ならずして、一日も早く自ら進んで運動するに至らんことを、これ唯己れ一人の健康、幸福の爲めならんや。而して其方法には旅行、遠足、登山、テニス、漕艇、體操等色々あらん、其孰れを行ふも宜し、行く行くは未だ我國に行はれざる西洋の遊戲を輸入するも可なり、要は婦人が一般に好く運動するにあり、それには主もなる婦人會が率先唱道實行して、範を他に示し、全國の婦人會に、其本務の外、體育會の性質を帶ばしむるが、第一の上策と信ずるものなり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

現代婦人の弊風

高等師範學校教授　吉田靜致

歐米人に較べると、日本人には獨立の精心が乏しい、中にも婦人は甚だしくこの弊を有して居るやうである、故に一家の主婦となつて家政育兒の任に方るやうになつて、日々其の任務に對する經驗を積みながら、舊來の習慣に對して其の善惡を識別して家を治め、子を育つると云ふが如き見識もなければ、自ら工風して是れに多少の改良を加へて行くなど云ふこともなく、唯だ母親から教へられ、人から聞いたなりを行つて平然として居る、云はゞ盲從の境遇に滿足して居るのである、是れは日本婦人に批評的の眼がなく、善でも惡でも、人の爲ることなら吾も亦た是れを爲して、夫れて婦人の天職終れりと思つて居るからである。

斯う云ふ風で日本婦人には獨立の精神が無くて、何事も人に賴ると云ふ所から、婦人の身に取つては尤も重大な問題、再婚すべき乎、寡婦で通すべき乎と云ふことに就いても、是れに對する自己の判斷力と云ふものが至つて乏しく、世間の手前があるから寡居するとか、人が勸めるから再婚するとか云ふ風で、再婚獨居孰れが是歟非歟の問題は別として、身に降りかゝる重大の事でさへ、人に依つて動かされるやうでは、到底純粹の貞操は保たれるものではない、また斯んな婦人では家庭の改良も出來ねば、家庭の平和を圖ることも出來ない。

然らば日本婦人は先天的に無能な者であるかと云へば、私は「否」と答へることが出來る、日本婦人を斯く無能ならしめたは全く教育の仕方が惡いので、婦人を教育するに餘りに干渉が過ぎた結果、婦人は獨立自營の氣風を失ひ、男子は婦人を觀るにナニ女の癖にと云ふ調子で、唯だ故もなく婦人を頭から押へ附けると云ふ習慣よりして、少しく目立つたことをすれば、直ぐとお轉婆とかハイカラとかの冷酷な評を受くる所から、自然婦人は己の能力を伸張す機會を失ひ、人に賴つてさへ居れば無事平穩で濟むと云ふ、誠に意氣地のない氣風のみを多く養なはれたに依ること丶思ふ。

所が時代の變遷と共に、現時の日本に於ては役に立つ婦人を渴望すると同時に、婦人に對する社會の要求が著しく多くなつて來たのであるが、無能に教育された婦人、乃ち活動の力、判斷の力に乏しい現代の婦人は、この要求に應ずることが出來ず、茲に於て社會に對し、家庭に對し、將たまた自己の將來に對して少なからぬ苦悶を感じて來た、是れは進步の階段であるから惡いことではない、要するに近來流行する婦人の煩悶は、皆な思想の變遷から起つて來たのであるから、私の考へでは、社會は婦人に對する要求の弊を大にするよりも、先づ婦人をして何れの方面にも發展せしむることの出來る方法を講ずるのが肝要であると思ふ、同時に其の父兄も進步的に、而かも時勢に適應する教育を施すやうに心懸けて行けば、今日の弊風を一掃することは敢て難きことではないと信ずる。

斯くの如くして婦人の心意が發達して來れば、こゝに始めて健全なる家庭を見ることも出來、男子が社會に立つて働く上にも大いに力となり、また其の子女を教育するにも多大の效果を奏するのみならず、社會道德の上にも少からぬ貢獻をなし得ること丶思ふて居るのである。

實業家の位置

日本興業銀行 法學士　村田俊彥

近來獨逸に於て專ら流行する學說は、國家社會主義と云ふのでありまして、獨占的事業は國家に於て營み、其利益は人民に平等に分配すると云ふの主義であります、日本に於ても近來此說が段々流行するの傾きがありまして、鐵道國有と云ひ、葉煙草專賣と云ひ、鹽の專賣と云ひ、大きなる事業は悉く國家の手に依つて營まるゝ樣になりまして、爲に實業家の働く可き領分が餘程縮少された樣に思ふ者もありますが、併し是れは誤りでありまして、國家の官營事業に適す可き事業は、財政學上其種類が限定されて居りまして、利益のある仕事は何んでも國家が營むと云ふものではありません、國家の官營事業と云ふことは、其事業より多くの利益を得やうと云ふ目的よりも、寧ろ徵稅方法の便利を得んが爲に官營にするのであつて、民間の事業と競爭して國家が利益を得んとするの目的で行ふのではありません、故に今日に於て實業家の働く可き領分が少くなつたと云ふことは、決してありません、元來商工業の如き事業には、國境は無いのでありまして、其働く可き範圍は世界的のものであります、是に反して國家の仕事は常に國內的に極限されたもので、領土を一步でも出ては仕事の出來ない事が多いのであります、故に官吏などと云ふものは位も高く、名譽の職ではありますが、其仕事は實に範圍の狹いものであります、日露戰爭後世界強大國の列に加はつた我國民は、世界と平等の步調を以て競爭して往かねばなりませんが、今日の處で日本が一番劣つて居る事柄は、商工業であります、これは畢竟封建制度の遺風として人々官吏となることを喜び民間に穎才の士が入らぬからであります、言葉を替へて云へば、官尊民卑の弊が未だ廢たらぬからであります、支那の如く國の衰へるのも、全くは人々が官吏のみを志願するからであつて、獨逸あたりで革命が起る原因も又官吏志願が多いからであります、元來一國に於ける官吏となる可き數は限定されて居るのであつて、是れに應ずることが出來ぬと職業がなくなり、從つて不平家が多く出來、革命の動機を作るのであります、然るに實業の方面は大小となく其數に限りがない、故に日本の新國民を作る可き責任ある賢母良妻は、其子弟をして成る可く實業家に養成する樣心掛けられんことを希望致します。

同居制と別居制

評議員　小浦義子

▲嫁を娘と　先頃より新夫婦の別居と云ふことが流行して居ますが、私は是に贊成せぬので御座います、斯る方法を取りますのは、重に感情の融和が取れぬ所から起因するのであつて、親に嫁を眞の娘と思ひ、其發達を喜び、其缺點を補ふと云ふの心掛けさへあれば、嫁も自然眞の親の如く思ふもので御座います、嫁に來るに始めから親の意見に逆らつて見樣などと思ふて來る者はありません、何うか親にも夫にも能く仕へ、出來る限り和合しやうとの決心で來るのでありますから、親の梶の取り樣一つで不都合を生じないと信じて居ります。

▲嫁の隔意　親の心掛けと共に嫁も又其家族に對しては、絕對に隔意を持たず、實家にあると同樣の氣心になりませんと、立派な和合を見ることは出來ません、例令ば如何程親が娘の如くに思ひましても、嫁が何時でも他人氣を出して遠慮ばかりして居たり、物事を胸に疊んで打明けなかつたりして長き月日を過しますと自然とお互ひの間に隔意を生じ、永遠の不和を招く基となります。

▲同居の幸福　老人と若い者が同居して和合した程幸福な家庭はありません、嫁は家を讓らねばならぬ大切な人でありますから、息子と同じ樣に思はなければなりませんから、足らぬ所を教へたり、少しづゝでも世話をして居ます中には、段々經驗もつみ家事にも慣れて參りますから、親としては此れを見るのが何よりも樂しみで御座います、又嫁にしても、老人の世話を燒くが嫌とか、兩親の側に居るのが不快とか思ふ樣では、妻としてあまり感服いたしません、凡て婦人は惠み憐れむの情がなくてはなりません、そうして何人に對しても愉快に幸福を感ずる樣に心掛けねばなりません、それ故に若い者が老いたる人の心を安め、また慰め樣と云ふ考へを持つて對しますと、老人は無聊とか淋しいとか云ふことを感ぜず、愉快に滿ちて月日を暮します、斯る氣風は延いて婢僕は申すに及ばず、家に出入りする人々に迄及ぼしますから、趣味傾向の異なる人が多數あればある程、益々其家庭が愉快に幸福を得らるゝのであります、斯る美しい喜びは、決して別居制に於ては見られぬとかと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

黄菊白菊

江戸　靜川

日記のページを繰ッて見る迄もない、天長節は楠男爵夫人の半生にとッて最も追懐多き日である。

帝國ホテルの夜會を了つて、馬車を驅ッて歸途に就いたのは、彼是モウ午前二時頃、秋深うして更けたる夜の風冷く、街燈の燈火は物淋しいとよりは、物凄い光を放ッて、晝間は人波打ッて雜踏を極めた日比谷の公園も、眠れる如く森として、人の往來はおろか、耳底に響く物の音と云ッては、自分が乘れる馬車の轍の轣轆として響くのと、二頭の駿馬の戞々たる蹄の音より他には何にもない。

裝飾美々しき電燈の光、花の冠、羅綾の裾、内外の貴人を一堂に集めたる當夜の夜會は、實に地上に於ける歡樂の極み、男爵夫人は舞踏の名手として、少なからぬ稱讃と名聲とを擔ふて、夢の如き心地でホテルを出たのである。

燈火の熱、人の熱れ、閑麝の香りに上氣した夫人は、馬車に乘つて、冷たい夜風に其の面を吹かれて、得も云はれぬ爽快を覺えたのである、さうして自分の身の幸福多きを思ふては、緋房の附いた扇を口にあて、獨り竊かに微笑まずには居られなかッた。

轍の軋り、蹄の音に交ッて、折り〳〵揮ふ馭者の鞭聲シユウ〳〵たる外、何物の音も聞えなかッた馬車の前に方ッて

「アッ、危險い。」

突然起ッた根太い聲、夫れは紛れもない馬丁の聲、深夜の寂寞を攪き亂して、平和なる眠りにある人の夢驚かさんとする惡魔の絶叫のやうに、凄く、凄く夫人の耳底に響いたのである。

歡樂の甘き酒に醉うて、恍然として沈思に耽けッて居た夫人は、この聲を聞いて徐に玻璃の窓の内から外を瞰して見た、同時に馬車は停ッて

「負傷はないか。」

と訊ねるは馭者の聲。

「ヘイ、負傷アありやしませんが、危險ねえ所で……。」

と馬丁が應へを聞くと、馭者はまた鞭を振り上げて、馬車は一文字に海軍省の横手を霞ケ關に向ッて驅け出した、車の中なる夫人は、この短い馭者と馬丁との對話を聞いて、略ぼ車の外に起ッたことの何事であるかを知ッた、さうして窓を排して、と思ふ途端に馬車は軋り始めた、見ると其の物凄い街燈の光に映らじ出されて、其處に身裝の襤しい若い女がシヨンボリ立つて居るのが瞥乎と見えた。

「鳥渡、車を停めて……。」

慌しく侍女を促して折ら呼ばしめた、命に應じて馬車はまた停ッた、さうして馬丁を窓の傍近く召されて、聞くと今此所——海軍省の横手に差しかゝると、思ひもかけぬ深夜に人、互ひに不意を食ッて間一髮、馬蹄にかくるか、轍に轢くか、何れにせよ危險ない所であッたが、先は事無く濟みましてと、馬丁は頭を垂れ、髀を低うして、犯せる罪を詫ぶるが如く慇懃に其の事實を陳べるのであッた。

「過失はなかッたとね、まア夫れはよかッた、さうして其の方は……。」

夫人は伸上がるやうにして、外を瞰し見ながら斯う訊かれた。

「ハイ、其處を參ッて居りまする。」

「鳥渡お呼び止め申してお與れ。」

呼び止められて立戻ッたは、見るから貧にや窶れし、この寒空に袷素肌、藥瓶に小さき風呂敷包を提げた、二十一二の女である。

夫人は徐に車の中より、目覺むるばかり美はしき洋裝の半身を出だして、懇切に其の粗忽を謝した、女は何んと御應へ申してよいやら、唯だ差し俯向いて胸轟かすばかり、馭者と馬丁は顔見合はせて、窃に額の汗を拭ふのであつた。

＊　＊　＊

馬車の内と外、盛裝せる貴婦人と、襤褸を纏へる貧女との間に、短かき時間に交はされた言葉は何んであらう、夜深うして誰とて是を知るものはなかッたが、後三年、星霜は流るゝ水の如く過ぎて、こゝに夫人が紀念すべき四度目の天長節は來た、さうして芝の破屋に身體の不自由なる大病の母を看護して、其の界隈に隠れもなかッた孝女吉井靜枝は、今は千代田小學校の女教員として育英の人となッて居る。

天長節！　夫人は四年前のこの夜の光景を、今も猶ほ目に見るやうに思ひ浮べつゝ、馬車を馳ッて今し二重橋近くに差しかゝッた、と見ると一群の稚き女生徒を率いたる容貌美はしき女教師は、馬車に描かれたる菊水の金紋の目に映ずると同時に、擦れ違はんとしたる足を止めて一揖した、顧る目には愛の光、見送る目には感謝の涙が溢れて居た。

佳節の夜に圖らざる因縁結ばれて貧女の立身、知る人なければ男爵夫人の德を稱へるものはないが、この德今は千代田小學校の學びの場に光りて、稚き少女に多大の感化を與へて居るのである。（完）

東西名婦傳

ブイマー侯妃（上）

文學士　原　篠川

其の君主權を傳へ得んが爲めに、男兒の出生を熱望せるブラウン、シユヴイク侯夫妻は、一千七百三十九年十月二十四日、呱々の聲をあげたるアンナ、アマリアが、希望を充たすに足らざるを悲りてか、其の人と成るに至るまで、父母尋常の愛撫をさへ與へざりき。

丈短うして華奢なりと雖ども、威儀自ら備りて活氣に富めるアマリア姫は、長ずること十七歳にして、頃しも彌生の月十六日、ヴイマー侯コンスタンチンに嫁す、侯は蒲柳の質なるが故に、永く之と共棲の樂を享くることは、到底望むべからざる也、之を姫の爲めに計るに、畢竟良緣と云ふ能はざるも、而も兩親の嚴命なるが故に、斷じて之に抗ふを得ず。

アマリア已に侯妃となるや、底弱なる所天の爲めに滿腔の熱愛を捧げて、奉侍甚だ努めたりしも、人力は天數を如何ともする能はず、病夫は侯妃と長男カールと、侯妃胎中のコンスタンチンとを殘して、二十二歳を一期として薨ず、豫期の天折は望まざるに的中して、徒に跡なる人々の九腸を剜りぬ。

此の避けて避け得べかりし不幸を避けしめざりしは誰ぞ、然れどもアマリアは、初より父母を怨みずして、孝順疎なかりしが、目の當り其の娘の不幸を見ては、流石にブラウン、シユヴイク侯も、大に感動せざるを得ず、快く死者の遺言を容れて、侯妃が丁年に達するまで、其の後見職に任ずる事を諾しき。

讀者試みに當時の史乘を繙け、精悍無比の甲兵を提げて、覇を中原に稱へたる、長髮白髯の好將軍あるを見ん、普漏西フリードリッヒ大王、即是なり、而して大王は侯妃が母系の叔父に當れる也、其の麾下に在りて勇名赫々たる者に、父系の叔父たるフェルヂナンドあり、更に實弟はインリッヒあり、況や名聞一時に冠たりし、ゾヒーシャーロッテ、エリザベートクリスチーネ諸王妃は、亦我が侯妃の如く、實にブラウン、シユヴイク系より出でたるなり、侯妃の自覺心は生起せざるを得ざりき、之と同時に自負心の發動するを抑え得ざりき、然れども此の自負心の芽は、幸に未だ二葉にして自制の鉞に摘まるゝを得たり。

聽てコンスタンチンを分娩するや、大に二兒の教養に苦心し、後ザーランドとクネーベルとを招致して、長男二男の師傅となしぬ、後年ゲーテがカールを訓して、名君偉人と爲せるものは、此の如き苦心の結果にして、詩聖が其の主に媚びたるに非るなり。

▲子守歌を募集す▼

天使の如き稚兒に無上の慰安を與ふるものは子守歌なり吾儕は諸姉が其の地方にて用ゐられつゝある子守歌を寄せられんことを望む

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衛生小說　舌鼓

糸左近

此處は某女學校の寄宿舍である、今日は綾に尊き天長節、何時でも旗日の午餐には常よりも御馳走するが例になつてるので、當番の梶原種子は、『終り初物の松蕈と豆腐のお汁に柚を一寸香はせ、お皿には蒿雀の味噌漬燒、香物は山吹色の澤庵』斯ういふ獻立をした、樂しみにしてゐたる式部達は、『まア珍らしいこと』、『まア香の宜いこと』、『まア香ばしいこと』、『實に旨しいですね』、『本當にさうよ』、『妾大嗜だわ』、『お汁のお代りしても宜くッて』

などの、聲々は食堂の彼方此方に聞えたが、即てそれも終み、さア食後の休憩をしませうと、某室に集まつたは、山川甲子、加藤乙子、笹田丙子、田中丁子などの六七人であつた。

甲子『今日の副食物は旨しかつたけれど、滋養物とは申されませんね、何ぜと言つて御覧なさい、第一松蕈は纖維性の物だし、蒿雀は野鳥ぢやありませんか、野獸野鳥の肉は不消化物だと過日も生理の講義で聽いたわ』

乙子『けれど貴女は豆腐の事言は無いぢやありませんか、大澤博士の說に豆腐は日本一の滋養品だつて、だから妾が理想通りの世帶をもつたら、三度〳〵豆腐の料理ばかりしようと思つてゐますの』

丙子『でも之を肉類に比べれば蛋白質に乏しくて、非常に澤山食べれば標準食量の蛋白質十八匁脂肪四匁といふ衞生の規則に適いませぬもの』

丁子『貴女は蛋白質ばかりを楯にして言はるゝけれど、含水炭素の食物が肝心ですわ、人間の活力は熱で、其熱を發する薪炭ともなる可き物は、勿論含水炭素でせう、だから御飯やお豆腐の如き物を第一の滋養品とせねばなりませぬと、妾は思ひます』

戊子『妾は又、滋養物とは身體に吸ひ込んで、それが同化してこそ滋養物なれ、何程蛋白質や含水炭素乃至は脂肪類が適度に含んでゐた所が、身體に吸ひ込まずと徒らに糞便となつて肥料屋喜ばせては何にもならんと思ひます、それには我國の學者達が我國人の費徒を分析された徒費量表に依るが宜いです、それに依れば米と海魚は最も徒費量が少ないです、ですから動物性だの植物性だのと偏つては甚だ宜しく有りませぬ』

戊子『妾は丁子樣に贊成します、成程徒費量表も一般人民の標準とはならぬさうです、それよりも自然の動物を標準にした方が眞理でせう、御覧なさい、肉食動物の虎や狼は猛烈ではあるけれど、何の役にも立たぬのみならず命も短い、それに引換へ草食動物の象や牛は溫順で用に立つて、随分長命もします、それで平常は強く無いやうなれど、いざとなつて鬪へば虎や狼にも負けませぬ、人間も斯うで無くてはならぬと思ひます、だから妾は肉類を食べぬ方が善いと思ふのよ』

丙子『畜生なんか當になるもんですか、若し當にして論ずるとすれば戊子樣の說は尚更駄目よ、獨逸の或る動物學者は犬に肉食ばかりさせてゐたれど、益々健康だつたが、植物性食物ばかり與へてゐたら四月とかで死んぢやつたさうです、だから畜生論は駄目〳〵』

丁子『丙子樣の語氣ッたら何です、もッと優しく言つたら善いでせう』

丙子『何うせ妾はお轉婆よ、丁子樣オー優しいオホヽヽ』

丁子『貴女失敬なッ』

丙子『これア伺ひませう畜生を標準にしては不可んと言たッて何が失敬です』

火花を散らさんばかりの論戰は最早亂軍にならうとする一刹那、

『皆樣餘り騷々しいですよ』

との一聲は何うやら校長先生のやうである、舍監の見廻は勿論なれど、校長自身が寄宿舍へ來られる筈は無い、偖も不審と皆々訝る間も無く、スッと戸を開けて

校長『寄宿舍を普請させたい所が有つて、大工伴れながら來て見れば圖らずも皆樣の熱心なる食物論、随分面白かつたです、けれども人身攻擊はお止しなさい』

一同『では最前からの？』

校長『殘らず聞いて居りました、これに就いては私も思ふ所がありますから、何なら一同で宅へ御出なさい、晩餐でも驕りませうよ』

＊　＊　＊　＊

叱られる事だらうと思つた一同は、意外なる校長の情ある言葉に甘へて、例の七八人は直ちに校長の邸を襲ふた。

校長『何が何程といふ標準食量表などは迚も行はれるものでは有りませぬ、考へて御覧なさい、貴女方が一家の賢母良妻になつてから、三度〳〵食物の目方を天秤で秤られませうか、迚も行はれますまい、又肉類は滋養物だからと言つても、之を厭がる人が目を塞いでお藥を服むやうに嚥み込て、それで効がありませうか、又植物性が滋養だと言つてもそればかり食べてゐたら動物性の物を欲しいといふ情慾がおきて堪りませぬ、昔し佛敎の盛んなる頃人民に動物性食物を悉皆禁じたら、藥といふ口實を設けて蛙や蚯蚓までも食べたさうです、だから何職業に拘らず如何なる氣候土地にも通有なる食物論を言へば、人間が自然に求むる所の食慾を標準とすれば、これが何よりの眞理だらうと思ひます、自然は即ち眞理で、一つ物ばかり續けて食べれば厭が來る、これ自然が食べるなと制し玉ふのでせう、夏になれば瓜や果物を食べたくなり、冬になれば脂肪を含んだる肉類の熱い汁でも欲しくなる、これ又自然が食べよと命じ玉ふのでせう、ですから豆腐嗜きな人は其人に豆腐が適するのであるし、肉類を好む人は其身體に肉類の必要あるに相違ありませぬ、或る博士が同じ滋養品を之を好む甲と之を好まぬ乙とに與へて、其の胃液を檢査したら、甲は胃液の分泌甚だ多がつたれど、乙は殆んど皆無だつたさうです、嗚呼自然は眞理です、だから皆樣が折角學問しても徒らに空論に馳せ無いで、一家の口に合ふやうに、又經濟も能く考へて料理を旨しくし、舌鼓を鳴しながら皆々喜ぶやうにするが第一です、舌鼓を鳴す程の物は唾液の分泌も多いですからね、それに就けても運動が肝要であります、能く運動してお腹が空いとれば香の物ばかりでもよく同化吸收します、臆病衞生家は流動性の食物で無くては消化せぬやうに申しますれど、齒は何の爲に自然が與へたのでせう、嗚呼自然は眞理です』

滔々と言ひ終つて、戸を開けば、早、夕雲は美しう彩つて庭の紅葉は錦を飾つてゐる、門前には、『豆腐イ〳〵』（終）

家事實驗談

評議員 男爵夫人　尾崎八重子

▲家事の實驗　婦人として最も必要なことは家政の研究であります、社會の如何なる階級に在るを問はず、家庭を作る以上は分相應家事に對しては眞面目な觀念を持たねばなりません、多數の婢僕を置く家になりますと、殊更ら主婦が萬事の取締りから經濟に關して、充分なる注意をしなければなりません、學問ある人や、敎育ある人のみが必ずしも家政に長じて居るではなく、家政のことは直に實驗によりて熟達するものであります。

▲二十年の梅干　私の家には二十幾年前に漬けた梅干がありますが、味も大變に宜しく、病氣の時などに食べますと、至つて利目があるやうに思はれます、年々漬けるのでありますから、椽の下へ澤山の瓶をならべて夫れ〳〵年號を記して置きます、保存法に餘程注意をしませぬと、長くは保ちません、斯樣なことは經濟の法から致すのではなくて、家族に美味のを食べさせ樣と思ふのと、一つは自分の樂しみとして居るので御座います。

▲二年目の澤庵漬　私の家には二十人の上の家族があります、夫れ故香物も随分澤山に要りますので、私は秋になると澤山に大根を買ひ求めて、自分が指圖をして漬けさせますから、二年目の澤庵漬もあります、此れは大變に味が宜しいので、迚も漬物屋から求めました品では此味を知ることが出來ません。

▲炭の買溜　毎年のことでありますが、秋から冬になりますと、炭の代價がズッと昂がりますから、私は其期に先つて、賣出しの時に秋から翌年の四月頃までの分を一時に買ひ入れます、さうして是れを土藏の下に列て置きますが、斯うしますと土藏の爲には濕氣を防ぎ、炭は土間の濕氣を吸入するので、双方の爲めに甚だ宜しいやうであります。

▲經濟の根本主義　前に述べました如く澤庵を自分で漬けるとか、炭の買い溜をすると云ふことは、一家の經濟全體から割出すと左程の差でもありませんが、廉價で出來ることを知りつゝ少しの面倒を厭ふて此方法を取りませんと、例令金子は些少でも、所謂濫費に類することゝ思ひます、故に小心翼々として浪費を愼むと云ふことが、家事經濟の根本主義であるかと思ひます。

家政實驗談を募る
文章は成るべく言文一致體で簡潔なるものを歡迎します

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◉理事會　十一月中の理事會例會日取りは左の如し
十一月十四日（第二水曜日）
◉評議員會　十一月中の評議員會例會日取りは左の如し
十一月二十八日（第四水曜日午後二時）
◉評議員例會　豫定の如く十一月廿四日午後二時より本部樓上に於て開會し出席者は近衞理事始め評議員千家俊子松平須磨子三井捨子仁杉歌子渡邊稻子有島幸子柳谷千代子中山幸子山脇房子濱尾作子高木鐐子高木富子關むら子佐藤猶子小浦義子松浦島子山地謙子尾崎八重子南郷柳子伊東美津子保利久子戸田時子新山雅樂子の諸氏にして贊助員を正數中に加入の件（否決）優待員章贈與の件（可決）支部に主事二名を置く件（可決）本會に參事會を設くる件（可決）本部構內に倉庫を建築する件（可決）なり
◉優待員章贈與現定改正　本會より交付し來れる遺族廢兵優待員の內廢兵にして負傷症項第五項（一眼を盲し若くは一肢の用を失ひたる時）同第六項（前項に準すべき傷痍を受け若くは疾病に罹りたるものには）從來與へざるの規定なりしが廢兵優待の主旨を以て爾後優待員章及び門標を與ふる事に評議員會に於て決定したり但し救護の資格は是まての通り四項症以上のものに限る
◉支部規則中改正　支部規則中第三條事務員若干の項必要に依り云々の前に左の一項を置く事に評議員會に於て可決せり
主事は支部の情況に依り二名とする
◉本會に參事會設置の件　評議員中より常任の委員を設け一週間に一回つゝ（毎水曜日）本部に集會し事務長と協議し本會事業に關する事務の進捗を圖り必要に應し之が規畫を立て會長に稟議することを得る任務とす委員は七名とし任期は一ヶ年左の人々を投票し選擧したり
濱尾作子、高木鐐子、山脇房子、柳谷千代子、濟浦鍊子、高木富子、鳩山春子
◉韓國に於ける本會總會　十月下旬鶴原長官官邸に於て職員會議を開きたる結果來る十一月十日日本倶樂部に於て第一總會を開く事に決したるよし本部に通知越したり依て會長より其趣き　總裁殿下に言上したるに　總裁殿下に於かせられても韓國に於てまて斯く總會を開くの運びに至りしを深く御嘉稱あらせられ當日は伊藤統監長谷川大將等も出席のよし

各地支部狀況

◉東京支部　東京市內に居住する廢兵並に同家族及戰死準戰死者遺族のものに對し慈善施療を引受けたる醫師あるに付き左の規定を發表したり
今回京橋區五郎兵衛町二十一番地休職陸軍三等軍醫正大澤留三郎氏本會の旨趣を贊成せられ廢兵並に同家族及戰死者遺族の方々に對して慈善施療を被致候に付施療を受けむとせらるゝ方は麹町區牛ヶ淵公園支部又は支部幹事部へ便宜申出て施療券を受領せらるべし其施療規定は左の如し
東京市施療規定
東京市施療區域內に居住する廢兵並に同家族及び戰死準戰死者遺族に對し本規定に依り診斷治療を行ふ但往診は當分の內京橋、日本橋、神田、芝、麹町の五區城內とす
施療區分
一、全部施療　全部施療とは、診察料、藥價、手術料、繃帶材料等一切を徴收せざる者とす但往診の車賃亦同し
二、一部施療　一部施療とは診察料手術料を徴收せずと雖も藥劑繃帶材料等の實價を徴收するものとす但往診は患者の住所電車停留所より二町以內は往復電車賃其以外は電車賃の外に車賃の實費を徴收す
一、施療を受けむと欲する患者は愛國婦人會東京支部又は幹事部に就て施療券を受領すべし
二、施療券は初診の際京橋區五郎兵衛町二十一番地大澤醫院に差出すべし
三、施療券は一枚一人に限るも全經過中効力を有するものとす
尙同支部の本郷區幹事部に於ては區內の廢兵遺族を慰藉するの目的を以て去月廿八日廿九日の兩日本郷座の芝居を買切り慈善的興行を爲したるが兩日共非常の人氣にて殆んど滿員の有樣なりしを以て豫定の目的を達せられたる事と信ず同興行については本郷區主任幹事秋間爲子氏最も力を盡されたるを見受けたり
◉京都支部　相樂郡幹事部に於ては第二回總會を十月十四日同郡木津小學校內に於て開く支部よりは副長中山笑子評議員河島末菊幹事六村ふく子氏等臨場せり同日午後一時來會者貳百餘名外に來賓二十名ありて式を始むるに當つて君ヶ代吹奏續いて幹事今井留子氏開會の辭を述べ次に中山副長御令旨捧讀式を行ひ支部長祝詞代讀幹事今井留子氏の答辭賞品授與顧問來賓等の祝辭河島評議員の談話あり畢つて今井幹事閉會の辭を陳べ式を終へたり餘興として蓄音器又は女生徒選手の遊技

ありて大に盛會を極め午後二時全く閉會したり
◉兵庫支部　有馬郡幹事部に於ては會員增募の手段を取り又一方には會費の整理を遂くるに決し各町村委員と共にまて其實行に努めたりしが其結果會員二百三十人餘を得幹事部各町村平均會員の部合は女子人口千人に對する七十二人強となり支部內最優等の位置を占め會費も又豫定の如く整理を遂げたり依て十月二十日三田町天神公園內に第二回總會を開催せり來會者無慮千參百人に及び正午十二時開會御令旨捧讀會務報告支部長告辭會長祝電代讀顧問祝辭會員總代祝辭等順次靜肅に其式を了れり式後來賓及會員には折詰を饗し且つ出席の有無に關せず會員及遺族廢兵には紀念の扇子を贈與せりと云ふ
◉神奈川支部　愛乙第六十二號の通牒に基き軍人援護會配當金下付の義豫て同縣知事へ請願し置きし處今般左の如く指令ありたりと云ふ
明治三十九年九月愛乙第五九三號請願救護費下付の件聞屆け候條左の通心得べし　神奈川縣知事
一當分の內年額金六百三十圓下付すへきに付每年六月十二月に於て各其半額を請求すべし
二前項の下付金は戰病死者の遺族廢兵及家族に對し其生業を補助し又は授產を爲す等各人生活の狀態に隨ひ主として獨立自營の途を得せしむるを目的とし其他子弟の敎養兒童の保育等最も有效適切なる費途に充つべし但し其勞働に堪へさる者若は事情已むを得ざるものに限り本文に依らず救助を爲すも妨げなし
三其支部の豫算書並に決算書は決定の都度速に當廳に提出すへし
四本下付金に對する執行の方法及其狀況並に成績等は時々當廳に報告すへし
五當廳は何時にても本下付金の支出の狀況を檢査することあるへし
六本下付金は臨時之を減額することある可し
◉德島支部　麻植郡幹事部第一回總會を同郡議事堂に於て開會せり當日は雨天なりしにも拘はらず遠近より來會せるもの百五十八名來賓を合せ百七十名に達し支部より支部長谷口美代子幹事三浦多滿子事務員住友さの子の諸氏及岩野主事田村事務員出席佩有功章吉能仁達朗氏出席せり式は祖川幹事開會の辭總裁殿下御寫眞開扉御令旨奉讀有功章授與會務報告會長の祝電代讀支部長祝詞各郡市幹事部長祝詞代讀終て萬歲を三唱し總裁殿下御寫眞奉閉にて式を終り議事を開き會員募集に關する件遺族廢兵慰藉會開催の件を議したるに募集は現會員一名につき各一名つゝの會員を紹介する事となし慰藉會は之を開く事に決し次に能仁特派員の講話あり之にて閉會紀念堂にて一同茶話會を開きたり
◉宮城支部　本部遊說員富樫眞喜子氏同縣下巡回狀況左の如しと報告せらる
一講話會度數　三十四度
一聽衆總數少きも二百五十名に下らず多くは約千名に至る
一聽衆には深く感動を與へたるもの丶如し
一開講以來入會申込たる人員約五百名あり尙續々申込の狀況なり
一富樫遊說員に同行巡回したるは支部長にして交代同行せしは評議員一名と相談役又は主事にして一行四人なり
一開講地の幹事部長及幹事は勿論顧問事務委員地方委員郡職員の熱誠に斡旋の勞を執れり
◉札幌支部　札幌支部內釧路郡釧路町幹事部は昨年二月設置せられ當時は會員僅に六人なりしが現今幹事部長谷川とよ子氏就任後會員募集に盡力せられ幹事委員其人を得一ヶ年を經過せさるに四百五十人に增加せり春秋二季に總會を開く筈なりと云ふ
◉熊本支部　夏期中休會の處十月より舊に復し去月十五日午後一時より開會河內山主事開會の辭次に岡野、西行、南木、三氏の講話あり了つて河內山主事會務の報告を爲し午後四時閉會せり尙同支部に於ては郡長會議出席の爲め出縣中なりし各郡幹事部顧問を招き去月十八日午後三時より江木支部長官邸に於て協議會を開く江木支部長の挨拶あり次て顧問江木知事より會員增募並に會費整理上につき希望を陳べ笠井相談役河內山主事よりは同會會員增募會費取纏め其他諸般の事務上に付配布せられたる調査に依り詳細說明せられ二三幹事部顧問よりも亦質問陳述する處あり終て茶菓の饗應あり午後七時散會せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供

眼白物語

笠間醉雨

東京の近在に住んで居られる或る華族樣に、二人の花のやうなお孃樣が被居いました。姉を雪子と云ひ、妹の名は綾子でした。二人とも大層綺麗なお方で、まことに瓜二つと云つたやうに酷似てです。酷似てすが、お心掛は鳥と鷺ほども違つて居ました。――綾子孃は氣立も詞遣も優しい、淑かな、愛くるしい方ですが、雪子孃はこれとは反對て、言葉づかひも荒く、そして此方の癖として、何でも他人の物を羨むといふ風でした。

綾子孃は大層小鳥が好きでした、小鳥の中でも殊に眼白が好きてすから、お慰として一羽の眼白を飼つて居りました。綾子孃は此上なく此鳥を可愛がられて、朝晩の餌は決して他手を煩はさず、それやこれやとお世話を燒いて居られました。それて眼白も亦この綾子孃を親のやうに思ひまして、お家の誰樣よりも馴れ親んで居りました。

綾子孃のこの眼白は體の大きい、細長い眼ばりの宜い、しかも其の啼聲の冴えさえしい、能く囀る頗るの名鳥でした。

雪子孃は、かやうに小鳥を養つたり、可愛がつたりする氣が少しもありませんで、却てその啼くのを、喧ましいとか騷々しいとか云つて貶しつけ、時には、意地惡しくつてお稽古が出來ぬなどゝ、云つて居りました。

或時のことでした。家扶の樫山と云ふ人が綾子孃に向ひ「この眼白はなか〳〵能く啼きますが、これならば何所の眼白と啼きッこしても決して負けませんですから、お孃樣！一度東京の眼白會―啼きッこの會―へお出しになつては如何です。きつと一等になります。」と大層乘氣になつて勸めましたから、綾子孃は「それならお前に貸して上げるから、お前の眼白として出して御覽！」と云はれました。

そこで樫山は早速これを拜借して、その眼白會へ持つて行きました。

眼白の會と云ひますのは、庭の木の所々へ、その籠をかけるのてす。すると五十羽なり六十羽なり、そこへ集つた眼白は相互に競爭して、聲を張つて啼くのてすけれども次第々々に潰れるのが出來て來て、おしまひには一羽か二羽しか殘りません。この殘つたのが即ち勝つたのてすが、綾子孃の眼白は一番お終まで啼き、其の啼き振りが無類だといふので、懸賞第一等の金のメタルを得て、家扶の樫山は氣狂したやうに喜んでお屋敷へ歸り、早速これを綾子孃に申し上げますると、綾子孃は亦限なく歡ばれました。

かうなつて來ますと、雪子孃も聊か此の眼白が羨しくなつて來ました。そこで綾子孃に向ひ「あたしも一つ飼つて見やうか。」と云はれました。綾子孃は、雪子孃の口からこんなことを初めて聞きましたので。大層うれしく思ひ「姉さん本當。」「ほんたうとも。」「ぢや樫山に云つて、買つて來て貰ふ方が宜いわ。」「さうしませう。」とのことで、雪子孃は早速樫山に命けて眼白を買ひに遣りました。

樫山の買つて來た雪子孃の眼白もなかなかの名鳥で、その體つきと云ひ、その啼聲と云ひ、綾子孃の眼白に酷似てした。けれども綾子孃の眼白は雪子孃のそれより、いくらか姉さんの方てした。

雪子孃の眼白が出來てから一月ばかり後のことてした。又も東京で眼白會が、開かれるとのことで、樫山は又も綾子孃の眼白を拜借したいと申し、雪子孃にも是非ともお出しなさいと申しました。すると綾子孃は早速これを承知されましたが、雪子孃は何故かこれを否みました。否みましたのは外でもありません。何うしても綾子孃の眼白に叶はないと思つたからてす。そしてその叶はないのを口惜しく思つて、ぢり〳〵してゐるのです。會へ出したいは山々て、そして又金のメタルを取りたいことも山々なのです。けれども眼白その者が劣つてゐるので困つてゐたのてす。それて雪子孃は一等賞を得たいために、到頭惡い心を出しまして或る時そつと其の眼白をすり換へて、素知らぬ顏して居りました。

綾子孃は、すり換られたとは知らずに、いろ〳〵と世話をなし、眼白會の日の來るのを、待遠しさうに待つてゐましたが、いよ〳〵其の日になりますると、樫山は綾子孃の眼白を借りに來ました。そして、更に雪子孃にもお貸しなさいと云つた所今度は雪子孃も喜んで貸しました。

その日の會では、不思議にも綾子孃の眼白は金牌一等賞を得ました。そして雪子孃の眼白は銅牌どころか、ずつと末の番になつたのてした。

すり替られたことを御存じない綾子孃は、いつもの通りそれは〳〵大層なお喜びてございましたが、自分ですり替へになつた雪子孃は、たゞ呆れるばかりて、怒る勢もありませんてした。

二三日の後、雪子孃は自分の心の制裁を受けまして、其のすり替へたことを懺悔され、きまり惡さうに、綾子孃にお詫びをなさいました。そして其の名の如き綺麗なお心掛になられましたが、それと同時に不思議にも、雪子孃の眼白は、綾子孃の眼白と甲乙のない名鳥となつたと云ふことてございます。（をはり）

菊慈童

本紙第一面に掲げたる菊慈童は、嚴島神社客人社內陣正面脇に掲げある繪馬にして、竪五尺、横二尺餘、藍江の畫く所なれども、年號月日は詳かならず、菊慈童とはそも〳〵如何なる童子ぞ。

概略を云はゞ、往昔唐土周穆王の時、寵愛の侍童あり、名をば慈童と呼ばれたり、或時慈童あやまりて帝の枕を踏み越しけるを、大臣已下僉議するに、其科輕からずとて、都より三百里の外、酈縣と云ふ所の深山へ流さるべくぞ定まりける、穆王不便に思はれけれども、助るに道なくて、ひそかに慈童を召され、往年釋尊より穆王へ親授せられたる法華經の四要品のうち、深秘の文句のうちより普門品にあるところの具一切功德、福壽海無量の二句の偈を授けらる、慈童は終に深山幽谷の底に捨てられて、常にこの二句の文を唱へければ、虎狼惡獸も近くことなし、呼けなさの餘り若し忘れやせんと側なる菊の葉にこの文を書付けゝる、それよりこの菊の露谷水にしたゝりけるを、慈童掬びて飲むに、味い甘露の如く、更に飢渇を知らず、加之のみならず天人おのづから來りて舞ひなぐさめ、鬼神も手を束ねて仕へける故、配流のつらさも知らざりけり、斯くて福壽心の儘に年積り、遂に通力自在の仙人となりたりけり、斯くて梁武帝の代にいたり、八百年餘を經たれども、猶は美少年の姿なり、魏文帝の時に名を彭祖と改めて出て來たり、帝にこの仙術を授けゝるとなり（諸錄提要）

古今　素性

ぬれてほす山路の菊の露のまにいつか千歳をわれは經にけむ

とうちやんのカッコ

久津見蕨村

▲「やす」坊は當年三歲になりますが、割合に知惠が早く付きまして、色々可愛い事を云ひます。或る時戶外から歸つて參り、お玄關から上つてまゐりますと、そこに父ちやんの「カッコ」が脫てある。

▲「やす」坊はハッと思ひまして、これは遠い所へ往つてゐらつしやる父ちやんがお歸りになつたと喜び勇んでお座敷へまゐりましたが、父ちやんは居ません。

▲母ちやんの所へ馳けて來て『とうちやんはどこに』と尋ねました。母ちやんは『何を云ふのだね。父ちやんは遠い所へゐらしつてお歸りにはなりませんよ』と云ひましても、坊は承知しません。

▲『ゐらつちやるのよ』とお座敷からお臺所からお戶棚からお庭までせつせと探しましたが、どうしてもゐらつしやいません『やす』、坊は不思議そうな顏をしまして『母ちやんや何故父ちやんはゐらつちやらないのてちゆ。「カッコ」がありまちゆのに』と申しました。

▲母ちやんは夫れて初めて氣が付きました。『あれはね、昨夜母ちやんが父ちやんの「カッコ」を拜借してね。お玄關にぬぎわすれたのですよ。だから父ちやんがお歸りになつたのではありません。坊がおとなしくして俟つてゐると今に歸つてゐらつしやいます』と云ひ聽せましたので「やす」坊は能くは分りませんが、どうやら合點がまゐつたやうでした。

▲これは私の倅のことですが、三歲の小見ても父の下駄から父を連想します心の働きが明かに生じてをることの證據に玆に記しました。此連想が發達しますと一から十と、知つたことを元にして知らぬことを推して知る智力になります、ですから母たるものは能く〳〵子供の心の働きに注意して其成長發達を遂げさせるやうにしなければならんのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日記の一ふし

伯爵夫人　酒井夏子

鹽釜神社の御參拜もすませられ、かねてまうけたる舟の美しうレースもてかざれるに、のらせ給ひ、松島に向はせらる、繪にみ歌にのみ見て、年頃おもひわたりしこゝのながめを晴わたれる秋の日に、やんごとなき御供申してながむるうれしさたとへんかたなし、舟のゆくまゝにこゝの島かしこの島、とりどりのをかしさにいつれをか繪にうつさむ歌によまむと思ふのみにて、鉛筆のはかばかしうもすゝまず口をしきに、御供せる花蹊女史はたやすう繪はがき幾枚をうつされぬ、うら山しともうらやまし。

舟人いふ、かしこに見ゆる島は都島といひ、其かたはらなるを后島と申すなど一つ一つ指しかたれど、一つ一つはえおぼえず、たゞ日數すくなき旅にはあれど

　母見も吾子も待たむと都島
　　名をなつかしみ見かへり行くも

風すこしあらうなりて舟いたくゆるに、頭おもく舟べりにうつふしぬ、とかうするほどしづかになりて、みだり心地もをさまりつれば、左右島々の景色ながめ見る、夕日の松にうすれゆくけしきいはんやうなきに、かなたより樂隊をのせて遊覽の人あまたのれる舟こぎ來る、物の音波にひゞきていとおもしろし、四十分ばかりにて御舟はてければおりさせ給ふ、愛國婦人會の人々あまた舟とまりに御むかへ申しぬ、支部長のあないにて松島ホテルに入らせらる、樓上よりのながめいひしれずをかしう、前にはくさぐさの小島浮び、左には五大堂老まつのひまに見え、右には雄島手にとるやうにて、渡月橋を渡りゆく人も數へつべし、夕日は島かげに入りてやうやう黒白もわかずなりぬ、星一つ二つ、濟うすみ渡りたるにも月の頃ならましかばと飽ず眺めをるに、島のひまより今宵の御慰みにとて流したる燈籠の見ゆる美くしさ、只浦風のあらきに一つ一つ消えゆくことのはかなく。

ふと夢さめて見れば時計は五時を過ぬ、起きいでゝつま戸あけさするに、島々には雨打そゝぎて風さへもつよう、家にありてのながめはをかしけれど、只けふ一日の御遊覽の日なればとくはれよとぞおもふ、九時頃風なほつよけれど雨はなごりなうはれわたれり、此のひまにとて瑞巖寺にまうで給ふ、人々御供申しぬ、寶物古跡などみそなはして、其より觀瀾亭にしばしいこはせらる、なもしれぬ白き鳥の松の上を飛びめぐれる、つり舟の島かくれゆくなどいと興ありげにながめさせたまふ、ホテルにて、ひるげ召して其より松島停車場へと、田面の風に浪よりてかゝしの靜にたてる繪のごと見ゆるひなのさまよ、賤のを賤の女老たる幼き皆かしこまりをる中にも、老たる女のひざまつきて、手をあはせをがみまつれるさまのあはれにゆかしう、宮も御心ありげに見給ふ、半時ばかりにて御車おりさせられ、福島の汽車にのり給ふ。

（閑院宮妃殿下の松島御遊覽の御供しける時）

短文

▲白菊（一等）　大坂　富永才子

昨日かも朝顔の時めきしまがきのほとり、今日ははや菊の園生となりぬ、淡紅黄紫とりどりになつかしけれど、殊に初霜のおきまどはせる白菊の花の雪はづかしき肌より、千代の香高く放ちて、うらうらと秋の日影に匂ひあひたる神々しさ、何にかたとへん。

▲選者曰　短文の妙境に近きたるを欣ぶ

▲花の姿（二等）　福島　横川千賀子

なべて花の盛りは短きものを、置く霜をかざしながらに庭の白菊咲き初めしより、はや何日經にけん、紅葉散りしき千草は枯れて寂しき籬に、秋の名殘を此花にのみ止めて、白きは清く黄なるは美しう、葉さへ青やかに露の雫も匂ひあまりて、殊更につくろはねど目出度ものを、あはれ畏き御園生に千代しめて幾秋久しう咲き匂ふ、花の姿ぞたぐひもあらじ。

▲選者曰　何時とても美しき筆敬服

▲薫風（三等）　埼玉　森田竹子

「孃やは又お花をお貰ひに來てよ」川にて青菜を洗ひ居たる婆、此の愛らしき聲にふと首を上ぐれば、友禪の被布を着たる六つ計の少女側の橋に立てり、黄白只二種の菊花爛熳と咲き匂へる園と、この氣高く愛らしき少女とを見比べて、菊と孃樣と何れか美しきと見惚るゝ婆が袖に風かをる、吾に丹青の心得あれば、後とも云はず、寫して置きたいこの瞬間、何んと云ふマア美しい光景だらう。

▲選者曰　作者はなぜ小説家にならぬのだらう

渡邊遊子

▲此かざし　群馬　伏島たき子

今日は天長節の佳辰、妹の髪のあみさげも常より念いれに結ひ上げて、鬢はと問けば、いつの間に折りとりけん、そと袂より取り出だす白菊一輪、程よくかざせば折角結んだ淡紅色のリボンもかくれるやう。

▲文机の上　名古屋　名取照子

昨日今日、いづちもさるかたには其道の上手が手につくられて、今は盛りと其色香をたゝかはしつゝあり、こゝの園には一本は幾百の花つけたる、かしこには去年は知らぬ新らしき珍らかなるが咲たる、はた子らも喜ぶいろいろの人形にとりなしたるなど、何れも目覺ろ計り美しさは美しけれど、あめつち狹き四疊半の文机の上に、借も心遣ひしてわが小さくおほしたてたる一鉢の、友が歌にも入りし此白菊こそ、なかなかにあはれは深うて。

▲唯だ一句　長野　金野やほゑ

長月九日といふ朝まだき、今日こそは針も鋏も捨て會せずやとの友の玉章、嬉しさに仕度そこそこ到りて見れば、菊の主の笑ましげに出迎へぬ、露散らぬ程にとて友の一人二人は已に短冊持しも見えぬ、朝日の影黄菊白菊に映じて其美しさに氣うときを、早く早くと促すは主のみならず、たしなみなき身のとみには出ず、辛じて「丹誠の花に見えたり菊の主」と唯だ一句。

▲一文字　京都　花輪余志野

名を一文字てふ、白の大菊を前年より土かひそめしも、事繁ければ手入れもとゞかぬに、自からなる匂ひあふれて、一重にて長き花瓣はめでたく緩やかに延び、紙もて受留けば末月の始まで咲亂れず、種々ある菊の中にもわれは殊に此花を愛くしむなり、かりそめに植たる菊さへ時に後れずかくもめでたく咲出ろに、たゞならぬ親の撫育を受たるわれは、色も香もなく、此花にも劣れる心地していと面はゆくてなむ。

▲露の玉　東京　鈴木菊子

梅雨に秋ぬらして苗下せしより、雨に風に心置きつる籬の白菊、朝な夕なに猶ふくらみて、末賴母しく見えつるが、嬉しくも今日天長の佳節、麗かなる朝日の光を浴びてほゝ笑み初めぬ、いでや置き添ふ露の玉の數々硯に受けて、千代に八千代に榮ゆべき、御代のほぎごと染めん哉。

渡邊作子

▲勝れし姿　東京　竹中とめ子

物かなしき秋の日に、心を慰さむるは菊の花にぞある、さしも咲ききほひし桔梗、萩、女郎花の、昨日今日おき添ふ初霜に見るさへ哀れになりはてぬるを、籬の下の菊のみは、霜に色香もいや勝り、いとも目出たく咲き匂ふ、誠數多き花の中より、畏き邊の御紋章にゑられし此花、只姿の勝れしのみと云はんや。

▲あるじ顔　愛知　石川類子

妾の館に年久しう仕へけるすさ人は、菊つくる事に心を盡し、何處より苗集めけむ、大輪小輪色もさまざま數花を咲せ、おのれ主顔にとひ來ます人々に、ほこりつゝ、實に花てふ花の中にも、散るを知らで千代の香り高く、靈井に沈釋れあるは滿咸けり、世の人よ、此ほまれある花にならひて清き高きおのが心とし給へなど、いやしき下ろうなれど聖人の御をしへに叶へるを、あはれにいとをかしう思ひぬ。

▲花の數　京都　磯谷錦子

去年の初夏教の君より一本菊を己と二つなき友とに分たれけるが、朝な夕な土かひ水注ぎて生ほし立つる甲斐ありて、天長の佳節には見事五輪の白菊咲きしより、互に幾千世かけてと寿ぎ樂しみける、あはれ今年は去年にも増して花の數いと多く、美し。

▲笑がごと　山形　阿部さゐ子

女郎花のなまめかしく、露の玉を簪したる其姿も今は見る影だになくなりしを、籬に咲ける白菊のみ、獨り時を得顔に、置く露霜にきほひて匂へる樣こそ、撓ぬ操の色も顯はれていとも尊けれ、今朝しも露のまゝなる白菊は豐坂上る天つ日の光をうけてきらきらと笑めるが如く、我大君のあれましゝ日をほぎまつるかと見えて、一入にゆかしうなむ。

▲花と共に　鳥取　近藤靜子

此程より東籬の下の菊花枝も撓はに咲き匂ひ申候處、母も幸ひ今日はめでたき佳節にし侍れば、例の親しき友垣集へ參らせて、いさゝかことほきなかれて觀菊の席開きてはいかにと申候間、元より何の興趣もこれなく、御請し申上候、もうら恥かしき極みながら、萬づ御差繰の上、午後一時頃より御越し給はん事を、花と諸共に念じ上げ參らせ候あなかしこ。

▲花神の姿　京都　清水いま子

秋長けて月清き庭に降り立てば、黄菊白菊今を盛りと咲き匂ふ、其樣花神の姿を花と裝したまひしにあらざるかと疑はれ、私に立寄りて一枝を手折れば、玉瓏々と散りて香氣衣袂に滿ちぬ。

新體詩

菊花

埼玉　森田竹子

或は廣き園の中
　或は狹きませ垣に
咲きこそ匂へけじめなく
　盛久しき翁草
高き姿と清き香に
　浮世の塵にまみれたる
人の心を清めつゝ
　君が榮えと諸共に
八千代の末も朽ちざれな
　霜にもおちぬ花の色

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

六十日間實費特賣

●嫁入道具として鏡臺と共に無くてはならぬ持參品

●主婦にとりて時計と共に一日も見ずには居られぬ必要品

東京帝國大學文科大學教授　文學博士　芳賀矢一先生
女子高等師範學校教授　文學士　下田次郎先生
編纂

日本家庭百科事彙

（印刷既成）

▲大册挿繪入見本　御入用の諸君は郵券四錢封入御申越次第進呈す

▲裝釘極美（四六倍判）紙數一千五百餘頁　▲精巧木版約千個　極彩色刷石版挿繪廿一枚

●印刷部數貳萬部
（特賣期限十二月十二日まで）

（甲種）金五圓五拾錢

（乙種）金六圓

着金順により來る十一月一日より送本す。來る十一月廿日迄に金壹圓を添へ申込み殘餘は特賣滿期後六十日間内に送金するときは乙種特賣購買者たるとを得。但拂込完了と同時に送本す。

遞送料
市内金五錢
市外金五十錢
臺灣、韓國、清國各廿錢增

期限後は嚴に定價金十圓に復す

但期限内と雖も印刷部數盡くる時は特賣を撤回す

▲育兒、衞生、裁縫、料理の心得なければ、善良なる家庭を作り難く、一生を通じて大なる悔恨あるべし。

▲音樂、美術、文學等を一通り知らざれば、高雅なる慰安娛樂なく、社交上亦常に肩身の狹きを覺えん。

▲東西の禮式作法、内外の風俗習慣を知らざる人は、何れの世にも紳士淑女として世に立たん事難し。

▲理化、博物、工藝の大要に通ぜざれば、科學應用の今日、常に人後に落つる事を覺悟せざる可らず。

▲地理、歷史、人物、物產等を明めざれば、世の大勢に伴ひ難く、競爭上いつも劣敗者の地位に立つべし。

▲民法、商法其他法律一般の知識なければ、權利義務の眞意を解せず、遂に立憲國民としての資格なし。

本書綱目

政治、經濟　法制、軍事　農、工、商　社會、交通　地理、歷史　博物、理化　天文、生理　文學、美術　宗教、教育　修養、音樂　歌謠、衞生　醫療、藥品　家事、育兒　衣服、服裝　裁縫、料理　飲食、住居　器具、日用品　職業、手工　技藝、遊戲　娛樂、風俗　禮法、人名　地名、書名

○サイ○サイカク○サイキンブンメイ○サイケン○サイバン○サイホー○サイミンジツ○サガ○サクモツ○サクラ○サケ○サシミ○サシモノ○サツマヤキ○サトー○サナダムシ○サフィア○サホー○サラシモメン○サルガク○サンカク○サンジューネンセンソー○サンジョクネツ○サンバ○サンルイ○ジ○シェクスビア○シオドキ○ジキ○シキュービヨー○シシュー○シダルイ○シチョーソン○シッキ○シッソー○シッタツリ○シツナイゾーショク○シナ○シナノガワ○シナリョーリ○シバイ○ジフテリア○シホン○シャシン○シャボン○シュッサン○シュトー○ジューニシチョーチュー○ジュヨーキョーキュー○シューキョー○シューブン○ジユーレンアイ○ショクミン○ジョシキョーイク○ショーカ○ショーギョー○ショーケン○ジョーソー○ショーニビョー○ショーニン○ショーヒョー○シル○シロートリョーリ○シンガポール○シンケイスイジャク○ジンコーコキュー○シンゾービョー○シンジケート○シンジュ○ジンシュ○シンスイシキ○シンダイ○シンリン○スイエイ○スイサイガ○スイソ○スイドー○スイモノ○スイライ○スシ○スモー○セイオーボ○セイウケイ○セイジ○セイシッキ○セイシンビョー○セイヨーガシ○セイヨーリョーリ○セキタン○セキユ○セキリ○セック○セップン○センベイ○センレイ○ソショー○ソゼイ○ソーザイリョーリ○ソーヤ

以上はサ行項目の小部分にて、各項目に就き由來、種類、効用、製法、應用等を詳述し一項目の說明數十頁に亘るものあり

▲日常業務多忙にして師に就くことの能はざる人は本書を師として社會百般の事物を學び得べし

▲師に乏しく書籍に乏しき地に在る人は本書一册を以て坐ら圖書館に代用し得べし

▲已に家庭を有して通學の便を失へる淑女紳士は、本書を以て家庭の顧問とし教師となすべし。

▲本國を離れて海外に在留せる人に向つては、本書は母國の音信を傳へて、多大の慰安を與ふべし。

▲官衙、銀行、學校、會社、病院、役場、酒保、圖書館、倶樂部、旅館等に此種の書を備ふるは歐米諸國の流行也。

▲宗教家、教育家、官吏、軍人、學生、會社員、一家の主人、主婦、令孃、何人も一本を備へて利便際涯なかるべし。

東京　合資會社　冨山房　神田

（郵便振替貯金口座五〇一一番）（電話本局一〇三六番）
（賣捌所全國各地の書肆雜誌店）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

佐々木信綱氏選　菊

天　寄宿舍の窓のほとりに植ゑおきし黄菊やことしいかに咲くらむ　京都　今井紀子

▲評　菊の花咲いてたる頃とも學校生活の去年をしのび我植し黄菊をおもふ女心やさしき極みといひつべし

地　妹のゆるし給へとかさし來ぬわかめつるなかの白菊の花　呉市　遠藤峰子

▲評　可憐なる歌なれば姉君も得しかり給はざるべし

人　久方のみそらの星のきよき夜や地上の光しら菊匂ふ　名古屋　名取照子

▲評　星と菊との配合すぐれたり、原作つちの光は白きくの花とあれど調よからずむしろ地上の光字音にていふ方まさりぬべし

○○秀逸

大輪の菊をかさしてやごとなき宮に舞ひしと夢みし夜かな　青森　濱口その子

朧の世をのかれてすめるわか宿におなし心のしら菊の花　岡山　江田道子

兄か植てわかませ結ひし庭の菊霜におこるを人に見せはや　青森　茂呂その子

雨おほひやれて日をふるませのうちに猶うつろはぬ白菊の花　仙臺　山田さと子

結ふ手もの花にほふはかりに咲にけりなかれにうつるしら菊の花　東京　麻生敏子

▲評　のやすらかなれといひさま新らしといひかたし今一きざみつとめ給へ

露ふかきあしたの庭に色そへてにほひこほるゝしら菊の花　宮崎　財部ゆみ子

萬代の霜にもかれぬしら菊をかゝみとなさん瓶に　東京　福島寶美子

世の朧ゝの花をのかれて住める山の庭のまかきに清きし　岡山　山崎つゆ子

千代の菊たへなる花て榮えめてたき君か代をことほきまつる　東京　山口理勢子

露霜に菊たわますにほふしら菊のたかき操をこゝろ　蘭島　富樫つる子

花いろ／＼菊かすく＼のその中に白きかことにけたかかりけり　東京　上野芳子

○

大君のおほみしるしにえらばれて散ること知らぬ花そめてたき　山口　末田竹子

織ろ機の音もきこえて賤か家の垣根ゆかしき菊の花　神戸　乾榮子

さなか子の祝ふ晴れ着の袖裾に花いろ／＼や菊かさり　東京　伊矢野幸子

▲評　着眼はおもしろけれど

宮の中に杖ゆるされて今年まてくすりを知らぬ菊の主かな　東京　森川榮子

▲評　原作一二句字中に杖ゆるし身のとありし着想新奇なれと三句以下のいひさまいまだしけれ

老いませる師の君訪へは咲きにほふ菊の中にて　函館　日向克子

▲評　三句以下いまたしなし

世にもらて三ふ花色は見えしあかつきの星うつくしき　長野　金野やほゑ

▲評　二句猶あらはや

しそれかし誰が風流の栞そなつかしき錄に野きくのうつ　東京　秋元小菊

▲評　谷やいむいひさまいまだし

天津日のひかりに匂ふ御園生の菊のさかりや久し　大阪　富永才子

千代こめし竹の園生に咲きいてゝ御代なかつきに匂ふしら菊　山形　阿部さぬ子

千代ふへき黄菊白菊こきまぜて御代の秋こそ久しかりけれ　京都　古川よし子

かりけふのすゝきの畦路露しけく手向けたる菊　秋田　西村智賀子

師のきみの一枝の墓にかさしと咲きいてし瓜かなりけむ　東京　保かた子

山人の千代のかさしと白菊生き保たみ子

白菊か家の垣根の水もにほふらし　三重　菊浦白常子

賤か家の花盛りとなりぬ一しほに　長崎　亡父君の川入はる野

れの菊盛りとなりぬ一しほに下川入重野

菊かなる心根結ひとめはや庭　函館　片岡初榮

樺太の境にうゑし菊の花君か御影に今日そさくらむ　三重　西山ひさゑ

大君のみいつと共に御園生のきくも年々咲きさかゆ　大阪　十合賞美子

入と重菊に香も豐なる大輪の一本折り添ふる今朝の　青森　吉田やすの

こと水のほきみて流るゝ巖陰に咲く白菊のゆかしくも　濱松　鈴木ためこ

谷かはの澄みて流るゝ巖陰に咲く白菊の　横濱　小宮山めんお

る手折らんか手折らむも惜し此垣に　埼玉　小絹そめ白

菊の花の中よりえらはれて上ま勺ふ　長崎　菊上まて匂ふ子

百ちゝの花の中よりえらはれて上ま佐藤よれし　岩手　佐藤まれら

かな誘ふ水ゆく川の瀬にうつり久しき　函館　坂田久子

菊の花水ゆく川の瀨にうつりてかをる　函館　坂田閑子

米洗ふ里の少女かくろ髮にうさしかさしの菊　埼玉　玉置らかなりゆ

入し傳へきいまなかりと菊の花　三重　重水野小島さぬ子

防ひ傳けきいまをさかりと菊の花　出來たし重島駒家子も

▲評　二句原作見事の菊みのつゆに生ひたる　仙臺　中原作之

大君の千代の秋菊にあふらむ御庭の白菊　東京　今日は露にき

幾まの日菊に代のめて庭のに咲くの　兵庫　なの原　山ひたけ富士子

昨日まで代の花菊の白くに咲くの　兵庫　原田そは本むや

御前の雲井の庭に咲く菊の色添ふる　菊の子　江戸山下かた正まさり

久方のしら菊咲く日も庭の白菊色添ふ　東京　小川貝原代かりし子

けつるし植し庭の白菊ましろなれ　東京　代父原の保な

うれぬまにくれなゐましろ今年もたか　奈良　林川君

らえにく菊の白菊咲きよろ　奈良　初野原若葉の前に子

黄ならぬ菊の今年もたく　京都　初野床小の代と

はりらく庭の白菊咲く長　京　千葉　植の村　め子

とうりおきし庭の白菊咲きかは　岡山　西ひと

植えきむちしけ匂へる八重菊　今も猶は　西村つちめ　長し子

ちらいらむ庭に匂へる八重菊　青森　鈴木村き安

にらんはつり香はれと　千葉　かまつら　三千代

る送りにけり中かはれと　京都　岩室駒子

九重のらにの千草の花はお　京都　岩と室

世の白菊は　の花

いろ／＼に千草の花はお

ら菊の花

あたゝかき日影にのみと思ひしを霜にもたえし　新潟　町田きくえ

う菊の花秋と思はさりけり庭の面に今日咲き初めし　愛知　石川々の花さき

よりの千草の霜かれ果つる花園に野田宮はりし類　京都　松本ちか枝子

入菊千草のみなうつろひし花園の菊の一枝　京都　松本余る

の千草の花咲き出てにけり園に　愛知　今日か路子

白きらんの花にはいともうと　京都　雛ひ輪志子

菊と菊と顔花のかなる御代のめくみ　守屋のへかし

朝る菊の色もうれしく　京都　月し矢

白の菊のかくさくる御代のめくみ静かに　秋田　細川さはれ子

ろの菊のかくさく御代のめくみ　秋のつ

九重のもの高しろしとまてあるらむ　静か岡　露清水のほまれ子

を日の花もひかりも添ひて　東京　金澤くまもた子

天津日の花ひかりも添ひてけ三年毎に重いよ　庄司ひさ子

菊ちなれぬひし鶴の黄菊咲にけり　友田よつく子

てなかひし鶴の黄菊咲きて　東京　藤根菊

つ枯れぬ楓の色もうすれ　東京　根留目ふみ

ら菊の錦井の庭の菊の花　千代田秋　留目文

久方の錦井の庭の菊の花　青森　近ろゝ静な

らん花咲きそめしより蝶　島取　安藤喜美

菊のなき花ふけ人たもとのに匂ふ　函館　土利の美

と通りもなくかめたもとに匂ふ　東京　伏見師の根

ゆきぬもうれしおく匂ふ　東京　井庭たき

さきぬよしも匂ふ　朝日鈴木のかし

色もよりもいよく高く　群馬　鈴わ思きの

らんとしも小庭の菊の　香かるな　京都　松の恩

去年の花ほ園菊の　東京　松のかり友

菊つし植ゑし小庭の菊の　咲きし　きま

う菊の花しとも　北海道　君花のそ

いとく寄せて　東京　四代のかい

ほいのかたく待つ　山口　わかは

けるにい菊白菊　千代田なりり

露霜に白菊かほる菊わかは　東京　千五十の嵐か

け　黄菊しら菊

月夜には黄菊しら菊かほり合ふ　東京　千代に月

くれなゐの色もかはらぬ　京都　下りな

つくろはぬ翁はゝもまつ　函館　中千年に

ふかき菊のなかに出てぬ　兵庫　一岡咲

おちこちのなかにも　秋田　千世の市

へたよりてふ花のなかにも幾しほ　愛知　世の市

闌て守る花のなかにかも　秋田　世の市

花ける花のものひとしきの　靜岡　知ら

なつかしき秋のいろ／＼の　新潟　渡た

菊れつのかしいつれあしとも　埼玉　千代

しきつのやさしく御園に咲　京都　渡へ

おほきみの秋の御園に　京都　磯千世

白菊のやさしく御園に咲き　京都　磯千世谷

なれも花のえにしも　東京　なるさくら

花のれの菊咲し庭の　宮崎

くれなゐの寶の菊はにも咲き　東京　庄司種子

のれも花の甕は秋にも目かれ

小花菊のちる庭の籬に咲き出し　京都　佐々木いさを

紅の寶菊ちる庭の籬に咲き出し　東京　宮下見せし

花の實は秋にも目かれせぬ　群馬　藤井見えし

君菊の花しとさらの千代まても色は　東京　宮下

露かしら菊に代をしても　新潟　木暮千代子

く菊に代をしても君の御代に　三重　木暮一本

あさきえなし千代もならひて菊　呉　白菊の花

榮ゆくし菊の花　初霜に

かえ行くに千代も手折りして　大阪　大谷藤

露けり分けりる手折りしそのに　大阪　大谷こ

とかむるしこの初霜に　青森　渡邊まさ

よろしき霜のかつの面に　東京　中川まつ

庭の面にかつらとこぼるゝ露を朝な夕な　東京　菊花

おくの霜にこほるゝ露を朝な夕な　東京　花

らか菊のれ霜をひとひとしはて花もしほ　京都　渡邊きく

いか宿かれの園をとひてしほ　大阪　江川ひ

なかかりかさしとはせむ　京都　江尻うの

わりの宿にありの園をとひて花もひとしほ　函館　大久保ま

かけ日になりひて花もひと　京都　盛田まさく

今日菊をかさねて御代のこと見ても　函館　盛田

らむ行く御代をことほく　長崎　松宮ふた

榮えそし千代の翁なと見ても　長崎　松宮ふか

き匂ふ菊の白菊咲きて　京都　小松の田

咲きらしく庭の秋の千代の　京都　清水しふ

植のかしき菊の白菊咲きへ　東京　岡田寶

の夕に千年のきゝ菊のしき　静岡　中村正香

我夕暮にきこひしき霜にあき　青森　中山目

我か宿に菊見えまして　東京　菊の手

朝なけにしら菊見えましき　静岡　水谷正

りし々菊見えまし　東京　菊寶

のへ白菊か千年をいはふ　庭の

其の踏ましたか千年をいはむ　東京　小川菊

野菊の秋をかとまかふ我か　静岡　秋田ゆき

幾千代の鍋秋を我かれ　秋田　浮いの

は砂の御園に咲きて幾千　庭の

白菊の御園に咲きて　九重

九重の菊の永き榮えにあや　岡山　末永良

たき旗風ぞ吹くことに九重　岡山　盛里

御代の花すみん色香もふかく　京都　八田春

かのきらみん色香もふかく九重の　東京　森須き

あかしきれて咲くや　京都　日田ぬ

菊のもら代の宮居の庭に咲き初　京都　一色重

秋重千代の宮居の庭に咲き初　東京　横山金

數しる菊のかもゆかし八重　埼玉　千代野一

百のきの匂ふもゆかし　埼玉　千代重

靜し露に千代の白菊咲き　京都　會田野

朝から菊の音もあはれなる　京都　會田

し家のりに千代の白菊咲き　京都　野

嗚ら鳥けの音もあはれなる　長崎　葛西

秋く菊の光の消えぬ間　長崎　葛西

な菊も色香かはらぬ白菊　函館　笑子

美し菊も色香かはらぬ白菊　函館　南原の

ら秋そこは色香かはらぬ　静岡

幾日やへむまた瓶にかさしつ　静岡　千代

今日はまた瓶にかさしつ　大阪　佐野多

な結ひそめし心盡しの杖　佐々野

たらちねの心をこめし菊　兵庫　大久保いた

りけれの心をこめし菊　兵庫　ゝ

大君の千代なさけて匂　京都　千代須き

は代のみ落葉かさなる賤　京都　小若葉の

秋の光とも見む菊の花　仙臺　平代の

君か光とも見む菊の　福島　千代

けるか代の光とも見む菊の　仙臺　千代

大方はうつろふものをなし　福島　渡邊ひ

そめてはうつろふものを　三ツ　かは

まくてさも翁のやさし　福島　渡邊ら

一本刈たる翁の　岡山　松の殘

かしこくも雲井の園に咲　青森　幾千代

ふらし菊みいつとともに　三重　千代

幾千とせ菊みいつとともに　東京　佐藤

大庭の菊みいつとともに　東京　佐藤知

俳句　菊

天　大輪は都に出たり菊の花　長崎　内藤まき代

地　菊見るや今日のよき日を酒くみて　愛知　名取照子

人　丹精を花に見せけり菊つくり　群馬　木暮千代子

十客

一とせの花のとちめや菊の花　東京　中隈富士子

白菊のこゝろ動くや井戸の水　岡山　仲田磯子

秋の旅野菊手折りて笠にさしけり　埼玉　森田竹子

白にして見直す夜ろのかさしけり　東京　秋元小菊

式場の花瓶に菊の香り設　青森　熊川寮代

國威揚り菊の香走る佳節　東京　赤澤英子

雲井より菊にほひそめけり菊の花　東京　藤田紫子

菊の宴花曜にほひそめけり菊の花　秋田　四村賀子

大輪の宴や燭を灯しけり　東京　丸橋の智ぶ子

菊見客の歸るや平和の日本晴り　京都　渡邊豐子

○

香にまよふ外國人や菊の花　三重　庄司種子

み咲いつてこやほろ風の今朝の菊　東京　山口理勢子

菊の咲いて香や藤旭のゝ露の里ひの匂設　廣島　小田信子

菊のかさや香の夜ひの月ののつ匂　三重　市橋幾子

年毎の香の夜の月ののつの宴　熊本　西田きく子

金屏に白菊の聲や白菊の宴　愛知　八田繁子

萬歳のに孫の秋けにりの宴　東京　水野艶子

菊園に菊の香りりけり菊の宴　京都　近藤淑子

見ろや度の花かりけつ小公の　埼玉　彦坂静子

菊の唐や昔をつ忍る節　島根　磯谷き子

窓の咲くものに我忍の秋　東京　尾花溶子

細家も菊の顔かつきの野に佳節　三重　下岡み子

細道にも我か菊の顔つきに佳節　三重　下部松子

草の香の節の菊の顔つき住け節　兵庫　南中種子

配膳に花も佳節菊の供りけり　三重　野中雄子

移り香の文菊の葉の案内状　東京　中山正子

世の代のりて菊の物の供へり　東京　今野ほ子

千咲にこの黄や文庭ゝ菊ゝ　東京　田島正子

落ち名めし井れけ菊の里の状　長野　萩原た子

子のてにもなら井た庭けり中　青森　南野るゝ

紫咲代の香りや菊の酒　三重　伊島静子

村のくは知る人のにや菊の尺色　京都　沼矢梅子

稚くて思ひは晴れぬ高着りや花　群馬　清田まこ子

菊か家のほにまは花高しにや菊　岡山　茂水のきこ子

一尺のみの鉢はれかも千やし菊　大阪　伏呂子

晩菊に手まに鉢菊は花千や代　廣島　江島道子

じまんの庵の額も千代の色　兵庫　江田め子

菊やんの庵の縁頼も千代の色　兵庫　遠川かな子

白菊のや世をしらぬ七部の菊畑　兵庫　乾藤榮子

ち高し世を盛りに入しれ菊の花　兵庫　乾藤峰子

香もりはり久しくや盛るけての花　兵庫　乾子

鄙りなはし秋にうけてしれ菊見の設　兵庫　乾子

第十四回歌作募集

題　冬夜

選者　佐々木信綱氏

規定　一人一首

優等者の作歌は十二月五日發行の本紙に發表すべし

上に於て披露すべし

第三十回短文募集

題　随意

選者　編輯局同人

規定　八十字以下

優等者の作は十二月五日發行の本紙に發表すべし

第十二回俳句募集

題　初雪

選者　編輯局同人

規定　一人一句

優等者の句は十二月五日發行の本紙に發表すべし

第三十回新詩募集

題　随意

選者　編輯局同人

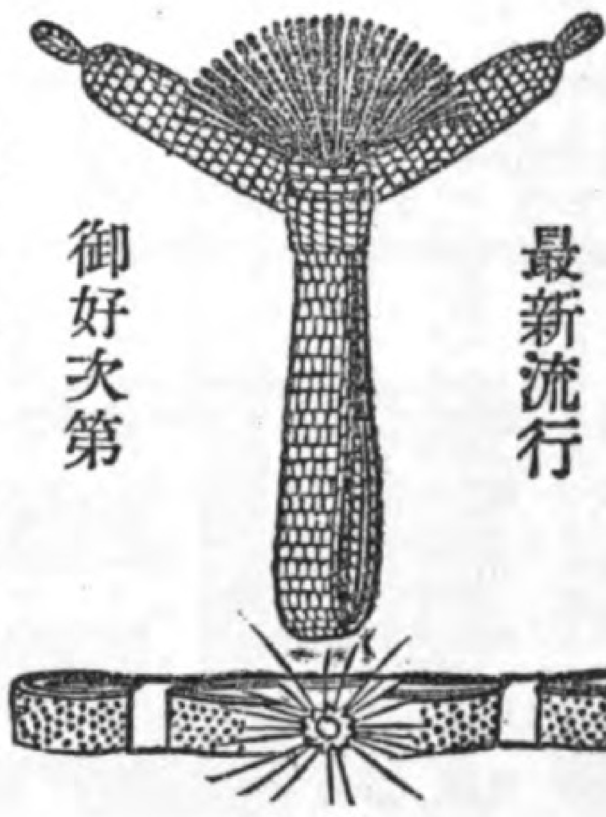
規定　成るべく短きもの

優等者の作は十二月五日發行の本紙に發表すべし

締切十一月廿日限り

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御進物用
絹糸 眞綿 組糸 一式
其他御編物用鶴印レース糸



最新流行
御好次第

東京市京橋區南傳馬町京橋際
鶴岡助次郎支店
電話本局一七四二番

松みどり香油

本香油は品質の善良、香氣の優雅なる、世上幾多の香油の比にあらず、交際社會に活躍する紳士貴夫人令孃は一日も缺く可からざる逸品なり

定價 大壜四十五錢 中壜貳十錢 小壜十二錢

製造本舖 東京上野廣小路 山崎屋油店 電話下谷一七三五

販賣店ハ各化粧店にあり

新柄澤山取揃へ申候間御用命奉希上候

半ゑりハ神田[illegible]

神田表神保町壹番地
電話本局二八五三
出店 新橋博品館階上

出店
本店 神田表神保町一番地 電話本局二八五三番
新橋博品館階上

商品案内

○銀側兩蓋之部　流行薄手形
價八圓半　瑞西石入向爪アンクル
價十圓半　同懐石卷上向アンクル
價十三圓半　同裏三枚懐石卷上向爪
價十四圓　米國中蓋付切天武向爪
價十七圓半　米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部　流行薄手形
價三十三圓　瑞西國十八金側御婦人持
價六十九圓　瑞西大金側中形紳士持
價七十九圓　米國製大金中形紳士持
價九十五圓　瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓　米國製18金形18紳士持

無代進呈

東京市京橋區銀座一丁目
電話新橋（二三三一）
伊勢伊時計店

京染新柄御半ゑり大賣出し
其外大見切半ゑり種々取揃へ申候
來十一月一日より十日まで粗景呈上仕候
又尚本年十一月より日曜日休廢し申候

[illegible]
電話本局三千九百四十七番
東京市日本橋通り三丁目六番地

官許
輕便安全
ゑらが赤毛染液

本液は最新發明にして從前有ふれたる白毛染と異なり極手輕てむすせわもなく僅か數十分間て染上り眞美黑色となり永く不變色の效力を有し皮膚をいためず毛を切らす有效確實の妙液なり◎定價六十錢壹圓卅錢送費拾錢

本舖 東京市京橋木挽町三丁目二十壹 康濟堂

○千葉 ウスネア丁幾

瘰癧 變質 新藥 强壯 半磅一磅金參圓○送費貳拾錢 半磅一圓五拾錢○同十五錢

本藥は千葉勝景氏の發見にして るゐれきの外、他の難患に對し治驗あるは説明書に在り（説明書希望の向へは無料送呈）

東京神田三崎町三丁目一（新三崎橋前）
千葉内科院内
ウスネア丁幾製藥部

イカニスレバ（化粧の問題）

お化粧も近頃は色々むつかしくなつて困りますが白粉は何がいゝてショウ
ハイ白粉てすか鉛のあるのは自漸にお顔の色が青黑くなり其他色々の害があると申ますし又鉛のないのはのりが惡くて皆さん方がお困りてしたが近頃博士方が色々御研究の結果て出來た赤門おしろいは鉛の毒もなく肌にのりも大さうよいので御ざいマス
夫れて賣て居りますカ
ハイ今度一般の需用に應ずると云ふので日本橋區馬喰町の花王石鹼や二八水をこしらえて居る長瀬へ特に指定して製造販賣をさせると申すとデス
オヤ嬉しいとホヽそれなら電話は浪花の三番へ掛るとわかりますネー
ナニ本舖てなくても有名な小間物屋ヤ藥屋で賣て居りますヨ
名前へてすか博士方の研究で出來たものですから帝國大學を因んて赤門おしろいと云ふのだそうて御座います

雅致高尙 生粹特色

目

半ゑり帶揚類

○ショール大都花優雅二德レース○絹毛敷類○祝ひしめしごき○長襦袢○同袖○帛紗札入○守巾着○涎かけ○別織下締め○博多伊達卷○羽折肩裏染模樣絞り形○ネクタイ○前掛地○嶄新案出 絹天 絞りゑり原販賣所 おろし小賣○獨特受賞 ゑり治形すゞめ形○紀念形髷○高等洗粉 チエリー バイオレット香料入

戰捷紀念 五二共進會内 正門に向ひ右へ入る突當り目印商標有ゑり治

新橋竹川町十二 電話新二〇二七 本店ゑり治
神田表神保町壹 電話本局九五二 支店ゑり治
新橋際博品館内階下 ゑり治出張店

色を白くきめをよくす

高等化粧用

二八水

東京馬喰町長瀬製

貴嬢未だは婦人世界を讀み給はざるか

婦人世界

十一月三日發行 第一卷第十號 一冊拾五錢 郵税一錢 半年分九拾錢 一年壹圓八拾錢 郵税共

◎如何なる家庭經濟か……五萬圓の財産家となるに至りしか……月給取りの家庭の福音……貯金を望む妻君の寶典

◎婦人日常生活法（大評判大喝采）村井弦齋
▲臥床は如何に敷くべきか……
▲夜具は如何に造るべきか……
▲枕は如何に造るべきか……
▲寢卷は如何に造るべきか……
▲不眠症は如何に治すべきか

◎小兒胎毒の治療法……待醫ドクトル加藤照麿
◎弦齋夫人料理談
◎豆腐は如何に料理すべきか
▲餡掛豆腐は如何に造るか
▲豆腐汁は如何に製するか
▲粂は如何に漬けるべきか……
◎音聲を美しくする法……
◎結婚前の準備 新式の月經帶（伊庭學士）
◎肥滿は如何にして治すべきか
◎夫妻の選擇法（坪井博士）

東京京橋 實業之日本社 振替貯金口座 參貳六番

東京產科婦人科 楠田病院長 楠田謙藏先生閲幷序
產科婦人科專門醫院 渡邊光次先生著

第十八版

普通 姙娠論 附り 姙娠の攝生

本書は久しく產科婦人科に從事して經驗に富める專門醫渡邊先生の著にして生殖器の解剖、生理、衞生を始めとし生殖に影音する全身の疾病婚姻並婚姻後の注意姙娠幷姙娠後の攝生に至る迄廿三章百廿項を設け悉く網羅して平易簡明に説述し加之精巧なる石版圖書數十葉を插入し振假名を付せられたれば苟も自己の健康に注意し系統を播殖し强健の子孫を得んと欲する諸君は男女を問はず必ず一讀せざる可からざるの好著述なり一たび此書を繙かば多病なりし夫婦は壯健となり不和なりし閨門は圓熟し不姙なりし婦人は可憐の小兒を擧ぐるとを得ん大方の諸君乞ふ世にありふれたる此種の著書と同一視するとなく一讀其不幸を癒せらる可し

一名 兒を設くる法
石版密圖四十個插入 正價六十錢 密封郵送十錢 紙數二百五十頁◎懐中本
附錄 小兒養育法

（一）家庭衞生新書 岡部醫師著 四十五錢 郵税四錢
（一）普通臨床看病法 醫士關氏著 正價卅錢 郵税四錢
（一）最近肺結核療法 北里柴山著 價八十錢 郵税六錢

（一）姙產婦の心得 一名安產育兒の法 價三十錢 郵税四錢
（一）最新產婆學 高等產科婦養成所 八十五錢 郵税十錢

發行所 東京鍛冶町 電本九四四九 誠之堂書店

世界の新聞

●露國皇太子の將來は實に豪勢なりといふべし、皇儲アレキシスにして生長せんか、非常に幸福に生活するなるべし、其搖藍は二十を以て數ふべく其內にて最下等のものも寶石を鏤ばめあり、孔吞瓶は黃金にて出來あり、其着衣は多くの女王の服よりも上等にて高價なるものなる由、父皇の位を踐む迄生存せば、彼自身にも記臆する事出來ざる程多くの尊稱を受けん、即ち二十以上の公爵の尊稱、百許の宮殿の主たり、之には三萬人の使用人あり、其私領地は八十萬町步に擴がり、之より生ずる歲入二千萬圓以上に及ぶべしといふ。

◎ヴイクトリヤクロスとは陸海軍人の勳功に對して授けらるゝ勳章なるが、此勳章の實價は僅かに一個六錢にて、此章の創定せられたるは、一八五六年にして、現今六拾二個の勳章中、最初の分は一八五七年六月二十六日に、女皇自らの手にて授與せれたるものなりと。

◎野獸の價格　アフリカの象は、一頭の價一萬二千圓より一萬四千圓にて、印度の象は一萬圓なり、駱駝は其數少き故、アフリカ象と同價格なり、河馬は體格巨大なれども、六千圓にて購ふを得べく、アフリカの牡獅子は二千圓乃至參千圓、牝獅子は一千六百圓又は一千八百圓、ベンカルの虎は千六百圓乃至千八百圓、駱駝は八百圓乃至千圓なりといふ。

◎各國帝王の俸給は莫大なるものなり、獨逸皇帝は同國プロシャの王として、七百五十萬圓の俸給を受けらる、然れど獨逸皇帝としては俸給を受けず、此外皇帝は私領の礦山、漁場、及土地よりの收入ありて、此の領分は同國にては誰れも比肩するものなく、バヴリヤ國王は年額二百七十萬圓を、サキソニー王は百七十五萬圓、バーデンの大公爵は八十萬圓を受く、露國皇帝は年俸一千三百五十萬圓にして、各大公の手當は二百萬圓。

▲世界最少の人物　はホルランド國のポーリナ孃といふ女にて、本年十八歲なれど背丈一尺六寸重さ一貫八十匁なり。

▲奇妙なる碑　獨逸の某鉛筆製造家は、此頃死去せしが、其碑の上部に石にて鉛筆形のものを建てたり、其中央の黑鉛の處は徑六寸餘なりといふ。

▲牝鷄の產卵數は健康なるものでは、其生涯中に、四百乃至五百に及ぶ、其最盛なる產卵期は二歲の時なりといふ。

雜報

◉高輪宮御寵愛の鸚鵡　高輪御殿に在ます常宮、周宮兩內親王殿下におかせられては太く鳥類を好ませたまふが中に久しき前より御飼養遊ばされし雌の鸚鵡をわけて愛でさせたまひ折にふれては御傍近く持ち出ださせ親しく御言葉など敎へ聞けらるるにぞ御徒然を慰め奉る種となりて、こよなく興を添へ參らすにぞ御寵愛はいよ〳〵加はり鳥の身ながら人より羨まるゝ光榮に浴し先つ頃よりは暫らく新宿御苑に預けられ兩殿下が御成りの都度々々、必らず召し出ださるるを例とせしが不圖せし病の爲めに斃れけるを聞し召されし兩殿下には憐れのものよと悼ませたまひ、せめては其の亡き骸を剝製として永く名殘を惜しませたまはんとの有難き御言葉に係官は畏みて直に神田區五軒町一動物標本社主米山米吉に之が調製方を命じたり、標本社にては面目此上もなしと斯道に堪能なる技手をして剝製を急がしめ此程やう〳〵出來して納附したるを見そなはしたる兩殿下には更に生ける時と異ならずと仰せられて深く御滿足に思召されし日夕其の死を弔はせたまふと難有き御情の露鳥類にまで及びたる美はしき御性行たゞ〳〵畏しと申奉るの外なき

◉赤坂御苑の菊花　赤坂離宮內なる御苑に於ては例年濟ゝ逸なる菊花を御栽培あらせられ開花季節には相當資格ある臣下に陪覽を許され衆と共に其樂を同うせらるゝ大御心こそ難有けれ扨も其御苑の菊花は宮內省內苑局の擔任となり同局の係官は努めて栽培に丹精を凝らし隱逸の淸艷なる名花を得て以て御淸覽の榮を忝なうせんとし年々〳〵苦心を重ぬれども此一兩年は氣候兎角順を失し折角名花の種をして意の如く其自然の精華を發せしむる事を得ず何れも深く之を恐懼し居りしに本年は何れの御花壇も發育良好にて團團たるほずゑの蕾は今や漸やう花唇を開き淸き香風に從つて咲くに至れり追て天覽の終りし後は本年も特別の御沙汰を以て陸海戰死人の遺族に拜觀の榮を賜はるやの御噂其筋の一部より仄に承はりたるが本年の菊花の御命名の如きも海陸軍凱旋の御歡びを爲せられ功勞ある艦船名又は武器等に因める御名を選ませ給ふやに漏承はりぬ

> **會告**
>
> 廢兵優待上必要につき廢兵の肖像寫眞一葉（裏に住所族籍氏名併記し）つゝ御送付相成度候也
>
> 愛國婦人會
>
> 各支部御中

◉靖國神社大祭餘興　本月五日より執行せらるべき靖國神社大祭三日間の中五六兩日は神田區錦町熊井嘉吉奉納の素人相撲を擧行し大關株を始め市內屈指の素人連登場の筈なり六日は午後三時より午後九時迄一百餘本の煙花を打揚げ七日は又梅若の能樂あり其番組は左の如し

「能」　鵜飼、橋辨慶、弱法師、鉢木、紅葉狩（替裝束）

「狂言」　雁礫、人か杭か、布施無經、鎌腹

因に遊就館へ出品の諸家の寶物類は孰れも三四日頃までに陳列濟となるべし同館看覽は日淸戰爭後一ケ年約三十萬人あり日露戰役後は非常に增加し昨年度の總計は六十萬餘の多數に上りたるが本年は日淸戰後と大差なき模樣なり

◉失明軍人の按摩練習　東京盲啞學校長小西信八氏は文部當局者の疑惧を排して自校內に失明軍人講習會を開始し此程其發會式を擧行したり同會の目的は日露戰爭に依る失明者百二十五名中より希望者二十五名を限り一ケ月八圓の保助費を與へ二ケ年卒業とし專ら鍼術按摩の實科を敎へ傍ら點字法に依り解剖生理等を修めしめ將來之に依りて活計を立て得るやう速成敎授を執るに在り既に去月一日より講習を開始し十三名の失明軍人を寄宿舍に收容したり此敬すべき失明勇士の姓名左の如し

功六級砲兵曹長吉田悅次郞氏（卅二）愛知縣名古屋正木町の人△功七級步兵一等卒伊藤金二氏（廿六）同縣中島郡稻澤町の人△勳八等步兵一等卒須田卯之助氏（三十七）福島縣伊達郡青木村の人△步兵一等卒大槻吉三郞氏（二十八）埼玉縣入間郡所澤町の人△步兵一等卒日裏安太郞氏（二十四）和歌山縣那賀郡池田村の人△步兵二等卒白井豐吉氏（二十七）茨城縣多賀郡松原町の人△功七級步兵上等兵栗城卯太郞氏（二十八）福島縣大沼郡野尻村の人△步兵一等卒小田平吉（三十）神田區猿島町住△步兵一等卒吉益陸三郞氏（二十八）兵庫縣津名郡由良町の人△功七級步兵上等兵高田村之助氏（廿八）岩手縣和賀郡十二鏑村の人△輜重輸卒田中庄太郞氏（三十三）石川縣鹿島郡御祖村の人△功七級步兵軍曹中山重一氏（二十九）埼玉縣大里郡本富村の人△步兵一等卒大久保淸太郞氏（二十九）新潟縣中魚沼郡新庄村の人

此等は十六疊の居室三個を自分が天地と定め極めて快活に無邪氣に學藝にいそしみつゝあり然れど一度其衷心の苦悶を察せば何人か同情の淚に咽ばざるべきんや二年の後は胸に名譽の金鵄勳章を輝かしつゝ鍼術按摩の生業に渡らんとするをや聞く獨逸軍隊の衛生隊には按摩卒の從ふありと我も此の敬すべき軍人按摩をして市中を流さしむるの陋態を示さず衛戍病院に於て採用するに至らんことを望む

◉ミシン裁縫女學院　ミシン會社東京支配人たる文學士秦敏之氏の設立に成るシンガーミシン裁縫學院は麴町區有樂町電報新聞社の裏手に三層の校舍を新築し去九月初旬より開校し百餘名の生徒を敎へつゝあり院長は設立者秦文學士の夫人利耕子とて高等師範出身の人外に敎員一名同院にて修業せし助敎員六名あり學課は普通科（三ケ月月謝一圓）高等科（三ケ月月謝一圓五十錢）研究科（六ケ月月謝一圓五十錢）と分ちミシンを土臺とし始め穴かゞりよりシャツ股引涎掛小供帽子より洋服に至る迄を敎授し普通家庭的の裁縫も內職向のも先普通高等兩科六ケ月の修業にて事足る可し而して六ケ月卒業の人にして同院より出敎授に行くものは一日を四時間として五十錢、月極にて十五圓の報酬を得らるれば二軒も掛持すれば女としては立派の收入と云ふ可し

新刊紹介

▲ホームの神髓　早川宗太郞著
本年九月小石川敎會院　定價三十錢
書名の通り家庭の要を摘んで簡明に說述しあり全部 [illegible]

▲ヴアイヲリン手ほどき　石原民雄著
本年九月神田冨山房　定價 [illegible]
[illegible]

▲言文一致文範　小林甚作著
本年十月 [illegible]　定價四十錢
[illegible]

▲家政寶典　近藤正一著
本年十月 [illegible]　定價七十錢
[illegible]

▲子ども　尺秀三郞著
本年十一月 [illegible]　定價五十錢
[illegible]

▲國文故事熟語正解　山岸辰藏編
本年十月 [illegible]　定價四十五錢
[illegible]

▲二宮翁致訓道話　鳳人著
本年十月 [illegible]　定價不詳
[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京買物用達合名會社

東京市神田區千代田町
（電話本局八九四）

如何にせば東京の物品を地方にて廉價に且正確に買求め得べきか
如何にせば東京の賣價を以て地方に居ながらに物を買求め得るか
如何にせば針一本の微に至るまで本家本元より買ひ調へ得べきか
如何にせばヒヤノの如き大なる者まで東京より買ひ求め得べきか
如何にせば流行に後れぬ最新式の品物を地方にて買求め得べきか

當會社は東京に於て賣れる物品は如何なる物品にても買入に盡力す
當會社へ買入方申込者は品名分量品質色合使用向代金を示されたし
當會社は運送費荷造費の實費の外手數料として代價百分の二を受く
當會社は買入代金十圓以上の物品は代金引換小包他は前金申受とす
當會社へ電話注文の向は三時間内に買調へ東京市内は直配達を爲す

無鉛高等化粧料 ピンク白粉

芳香は世界無類一度御試用あれ販賣は全國到る處に有

佛國パリー直輸入
倉田商店

たんせきに 淺田飴 すきはらに めし

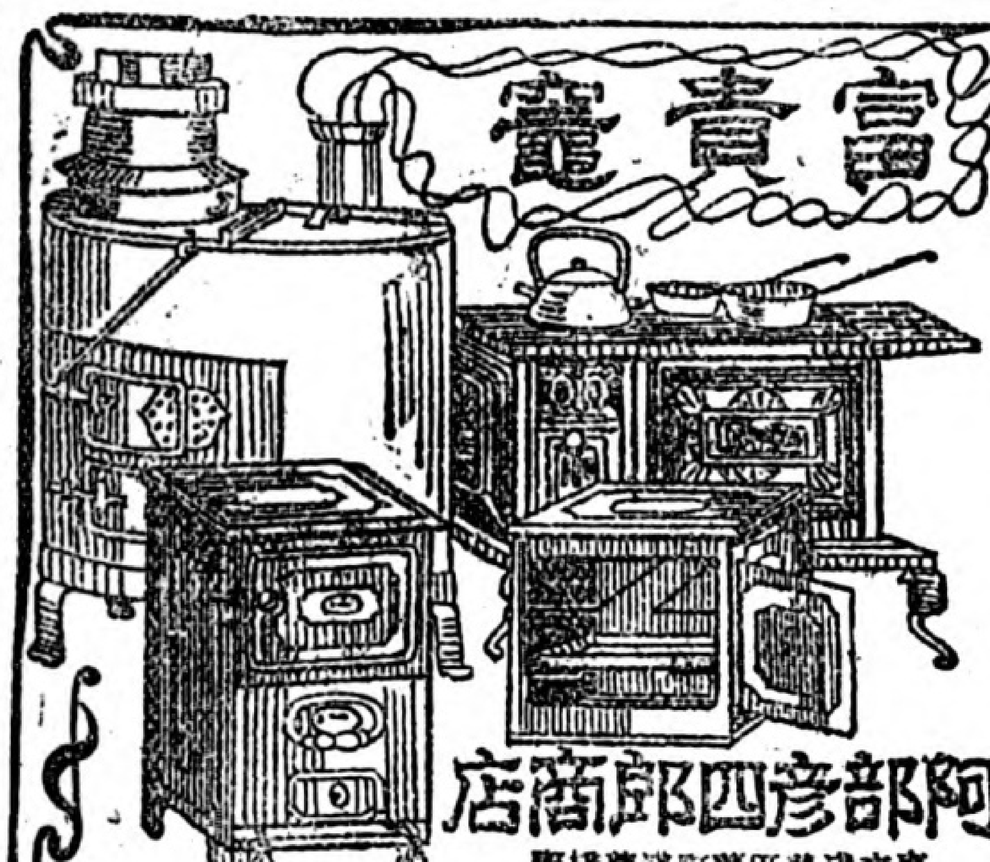
從四位淺田宗伯先生直傳
淺田飴
良藥にて口に甘し
定價 金五拾錢 金參拾錢 金貳拾錢 金拾錢
本品全國到る處の藥店に販賣す
本家 東京神田鍛冶町 大阪北久寶寺町
堀内伊太郎

洋織物 裁縫物 毛布 敷物類
何なりとあり有まいと御思召品も御尋下さい

女子教育

編輯主任　文學士　下田次郎氏
第三卷第十一號
十一月一日發行
定價拾錢
本邦婦人雜誌中最も程度高く歐米最近の婦人に關する論說を紹介し最も讀み答へあるもの
發行所　東京市神田區錦町一丁目　明治書院

眼科一般 特に美貌に關する手術（入王子病院從前通）
斜視（すがめ一名やぶにらみ）
畑眼科院
牛込市ケ谷田町三の廿（外濠線新見附外）
手術成績の寫眞標本は隨時一覽に供す



洋食器具類一式
特許 輕便料理ストーブ　一名改良テンピは
輕便で完全に料理ストーブの効用を稱す
實用新案テンピ　金二圓三十錢
特許テンピ　小金四圓五十錢　大金六圓
富貴竈 銅壺空焚濡り保險
商品目錄御一報次第進呈す
阿部彥四郎商店
東京淺草區茅町淺草橋際
電下一九一二三

專賣特許美術鑵入
シカゴみやげ
象印はみがき

本舖 東京
安藤井筒堂

自活の道を求めらるゝ婦人方に告ぐ

本院の卒業生を家庭敎師、學校敎師として雇聘したしとの申込を受けたる向多けれども、本院創業已來日尚淺く、現在の卒業生のみにては四方の望みに應じ難し、此際當院へ入學せられ、來年四五月頃に至り本院の高等科を卒業せらるべき方にして、自活の道を求めらるゝ方は、本院は之を家庭敎師に採用し、或は本人の望みに依り自宅の職を授くるの勞を採るべし、
仍て左に當院在學の費用を記すべし

普通科　三ケ月　月謝壹圓ヅヽ
高等科　三ケ月　月謝壹圓五十錢宛
入學料　壹圓　材料自辨

當院は今回左圖の如き校舍を新築したるに付き尙百名斗りの入學を許可し得べし、寄宿舍はあれども既に滿員にして當分入舍を許し難し、地方の人は其用意して上京せられたし
目下家庭及學校敎師として申込を受けたるもの凡そ五十口、來年四五月頃迄には凡そ百五十口に達すべし

規則書は進呈すべし
郵稅封入申込みあれ
東京市麹町區有樂町一丁目五番地
シンガーミシン裁縫女學院

◉成功セル電氣應用美顏術

本術ハ親シク歐米斯界ノ專門大家ニ就キテ專ラ學修シタル最モ成功セルニシテ當ニ顏面ノあざ、しみ、黑色、あれ、にきび、そばかすノ除療其他去皺、赤鼻、隆鼻等顏貌ヲ好クシ顏面ヲ美ニスルノミナラズ神經系ヲ勇壯ニ血液ノ循環ヲ善良ナラシムル等ハ既ニ歐米大家ノ確證セル所ナリ
美ヲ希望セラルヽ貴婦人諸媛ハ何卒陸續御光來ノ榮ヲ給ハンコトヲ

NS式電氣應用美顏術
白色艶
嶄新流行婦人束髮並洗髮
日本橋區本町一丁目十四番地
NS式婦人化粧師
莊司直子
（電話本局三八三番）

ムスク香水

（大瓶壹圓◉中瓶六拾五錢◉小瓶二十五錢）
○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり
東京日本橋區本石町四丁目
ホーサン石鹼本舖
本舖 松澤常吉
（電話本局百四拾五番）

◉白き油でなく
◉現時大流行
高等香油 ペース油
大瓶 金五拾錢
小瓶 金參拾錢
發賣元 東京日本橋區檜正町
前田久昌堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最上醬油

キハク印

於聖路易博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　電信略號(キハク)又(ハク)

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七番

奥村五百子刀自軍隊慰問紀念
▲婦人の慰問使　全一冊
定價郵税共金拾參錢
東京九段牛ヶ淵公園　愛國婦人會内
愛國婦人發行所

最新流行
美術蒔繪櫛
笄諸小間物品
束髪用品
和洋化粧品
各種石鹸
東京日本橋區…町
よし…
浪花一四四六

五二共進會樂器出品

階上東京の部に斯道の逸品種々陳列仕り置き候間御一覽の程奉希上候

本店東京神田區かじ町十二
樂器商　菊屋總本店
電話本局二四四九番

美術貴金屬袋物商
東京日本橋區人形町通り
澤田治助
電話浪花二五六九番

さらば赤毛の人に告ぐ

二瓶一組小五拾錢○同大壹圓○送料拾錢

該液劑は獨逸國博士の發明に弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にして僅か十分間にて染上り黑き光澤を發し美麗なるは烏羽の如し而して永久禿げる事なし其理由は毛髪中に硫黄質を含めるものにて此の硫黄と液劑と毛中にて化合酸化硫黄となりて黑色を表出するものなれば禿る憂なきは明白なる事實にて皮膚に無害なるは弊店保證致ます

毛染所　東京京橋本材木町三ノ四　岡田藥店

金銀時計
寶石指環
各種…
東京市…
大西時計店
電話…一六八六番

第五博覽會三等賞受領
銅鐵製各種風呂釜改良
湯沸器風呂各種出來有
銅製路良風呂釜各
大小出來有
圖面定價表御入用節郵税三錢送り御請求あれ
東京日本橋區通油町十九(電話浪花一四六番)
製造發賣元　銅器物問屋　南部鐵瓶販賣　石川商店
代理店　京都柳馬場　春井喜助

商品目錄定價表御申越次第送呈

意匠斬新
ムし櫛、かんざし
リボン、ヘーアピン
サイドコム

美術小間物商　東京市神田區須田町十番地
三ッ井屋
電話本局二〇七六番
支店(神田神保町東明館内　新橋きわ博品館内　五二共進會階上)

松澤ホーサン石鹸
●色白く艶をだす
(大形一個廿錢　小形一個十錢)
●近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意
●當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店に於て販賣す
東京本石町四丁目　芳香藥種問屋　ムスク香水本舖　松澤常吉

かしこき邊りの御料に召させ給ふ
高貴御化粧料
完全無類

御料　御園白粉
ねり粉　御園の雪
みず粉　御園の月
粉粧　御園の花
高等化粧水　御園の露
クリーム　御園のつぼみ
はみがき白粉　御園なでしこ
濃厚化粧水　四季の花

製造元　東京　御園
發賣元　東京小間物化粧品問屋　丸見屋商店
日本橋區横町四丁目
電話浪花四四番

高等香油
チエリーオイル
紳士貴婦人令孃用

本品は無色透明さらさらとして水の如く優都たる香氣は恰も香水に異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令孃方に目下大に流行せる彼の束髪用としては非常に高評を博しつゝあり
定價八十五錢、四十五錢廿五錢(送料各十錢)
賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり
發賣元　東京日本橋區本町二丁目　高橋初次郎　電話本局四一三番

美人ムスク石鹸

此形ナキ物ハ模擬ナリ

美人ムスク白粉

輸入元　東京市日本橋區新和泉町　桑原花生堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮中御歌所寄人中邨秋香先生著
增訂六版 文鑑 千草の錦

本書は現代の文豪中邨秋香先生が古學復興以來諸名家の文中男女學生の模範となるべき美文、記事、紀行、論說、物語體等無慮數百編を選出せられ之に加ふるに當代諸名流の文を以てせられ特に上欄に要語數萬を載せ作習の模範と應用とに供せられたるは他に其比を見ざる最良の文鑑なり

紙數三百頁餘 菊形和裝一冊 無類の美本 定價金六拾錢 郵稅拾錢

振替貯金口座第四一〇九番

古今集詳解

和裝全四冊 卷一定價三十六錢 卷二定價四十四錢 卷三 卷四 近刊

中邨秋香作 新編手紙

木版半紙摺新意匠 定價四拾錢 郵稅四錢

本書は中邨秋香先生の新作にして作文獨習者の爲に通俗平易なる實用の文例を總振かな付にせられたるは他に其比を見ざる處、特に小野鵞堂先生が大字に書かれたれば習字の手本として此上もなき良書なり

小野鵞堂書 消息文のはしがき

木版半紙摺無類の美本定價四十錢郵稅四錢

新撰書簡文例(男子用)

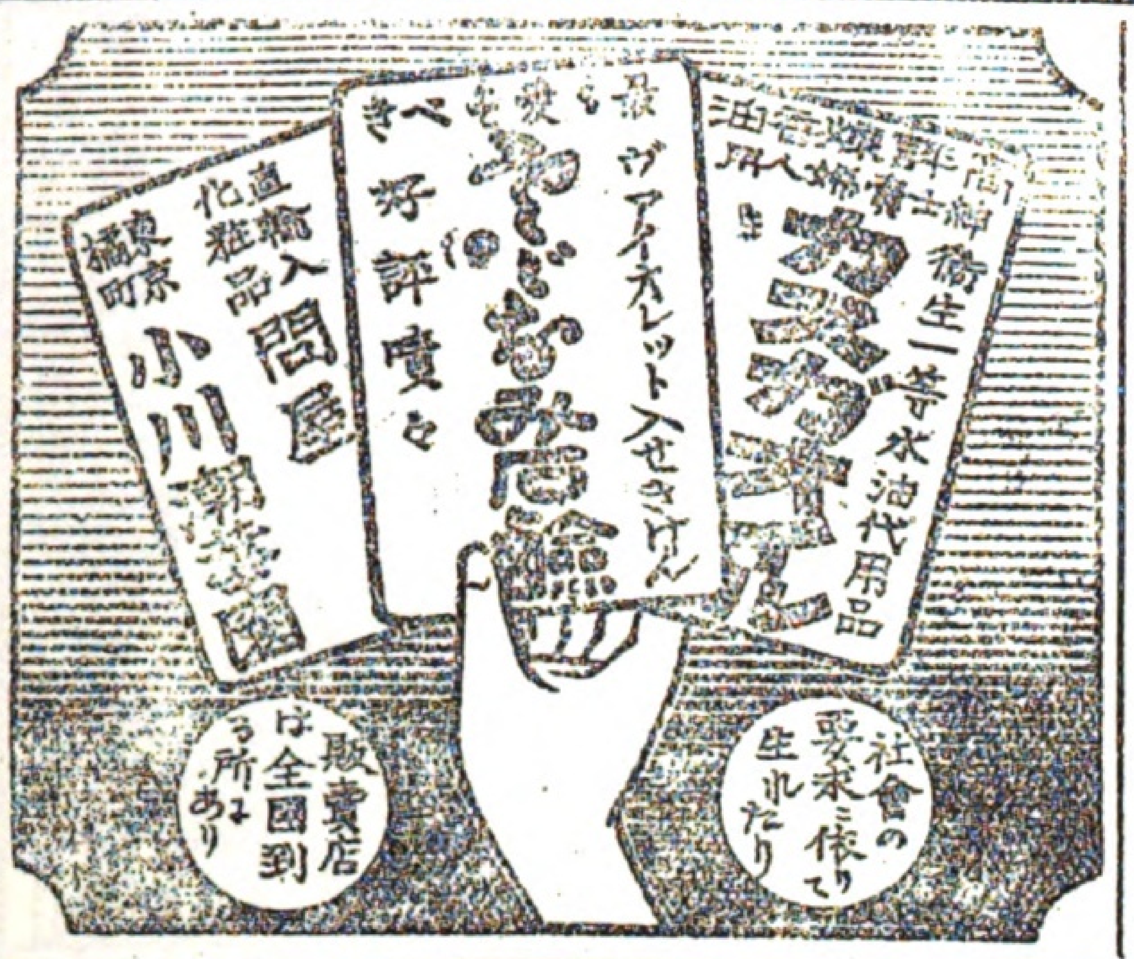
木版半紙摺頗高尙優美本男女各一冊 定價六拾錢 郵稅四錢

女子書簡文例

本書の文例は現代の文豪秋香先生の腦漿より迸出せしものなれば、一言一句津々たる趣味あり、繁に流れず簡に失せず、眞に今日書簡文の好模範たり。加ふるに書は筆硯界の巨擘鵞堂先生の手腕に成りしものなれば又習字の龜鑑として上乘の書なり

東京市京橋區中橋廣小路六
發兌 前川文榮閣

改正内外圖書目錄 明治卅九年十一月一日 御入用の方は往復はがきにて御申越下され度



日本橋區堺町通ふきや町電浪千二百七十番

醫家 處方調劑

◉調劑之正確◉

一醫師ノ處方箋ニ係ル調劑ハ極メテ丁寧綿密ニ且ツ迅速ニ調劑ス

一當藥局ハ旣ニ久シク醫家諸彥ノ御信認ヲ辱フシ尙東京郵便局ノ指定藥局タルノ光榮ヲ有ス

一藥局トシテノ設備又大ニ完全シ醫家ノ處方箋ニ依ル調劑ハ必ズ主任藥劑師之レヲ擔任ス

◉藥品之純良◉

東京神田今川小路(電車停留場前)
電話本局一五一八

尾澤純良堂藥局

藥劑師 大西橘三
藥局主任藥劑師 田中利弘

HAIR—ROLLS U .S. PATENT.

◉米國最新流行の束髮前髮じん◉

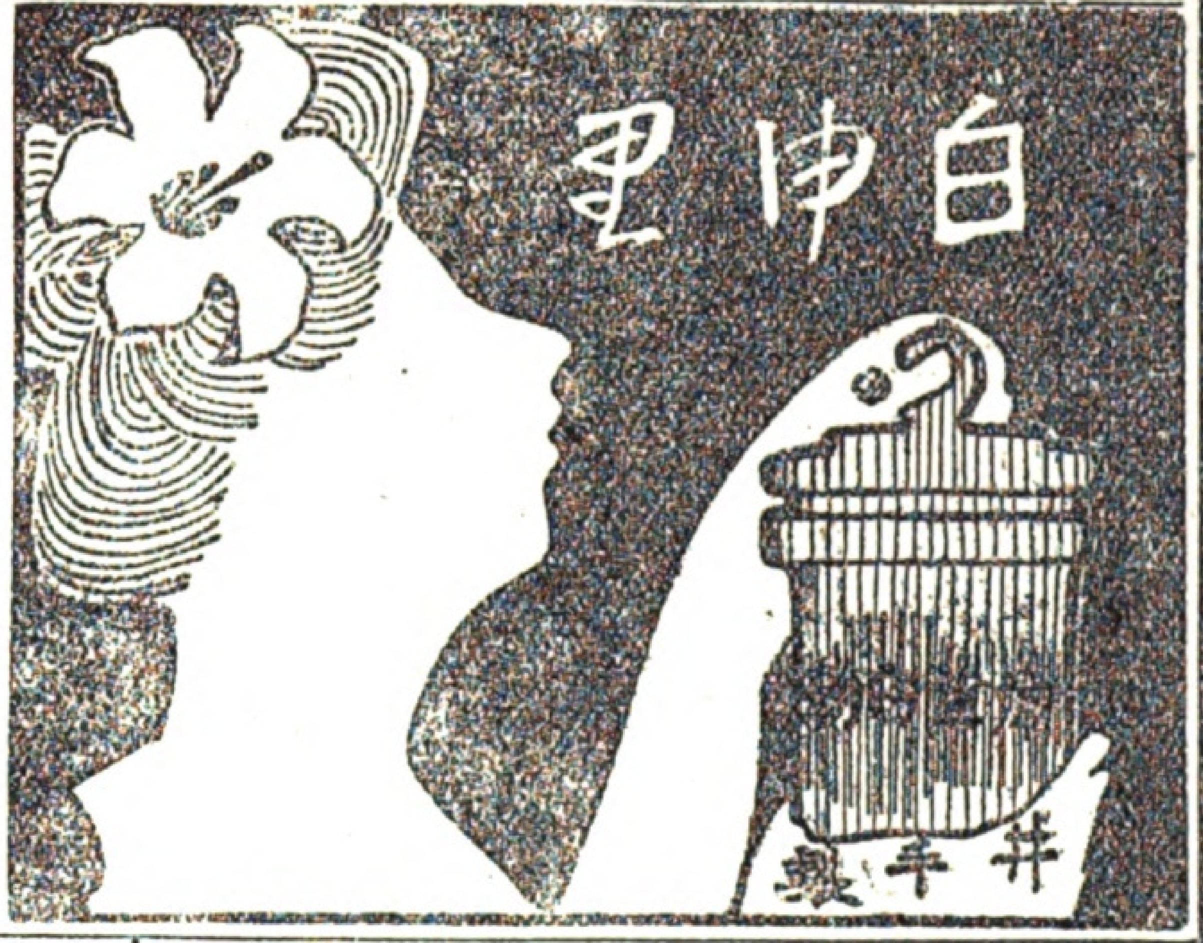
ヘヤロール

▲流行の「エス卷」結に最も必要
▲輕き事「ハネ」の如く伸縮自在
▲髮を出すには、なかほどを糸にてくゝり長くせば格好宜し
▲頭部を冷して「フケ」を除去す

◉ヘヤタイは貴婦人用の束髮元結にして切る事又は結ぶ手間を省き一本あれば半年の壽命を保つ德用便利の品

賣捌所 各地和洋小間物店

日本一手販賣元 東京市京橋區鈴屋町一番地 日加商會



白ゆり白粉は東京市内にて賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き内務省衛生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる

白ゆり白粉は梨園の花たる芝翫、梅幸、高麗藏、羽左衛門等の常に愛用せらるゝ品なり

消化新藥

醫學博士井上善次郎氏の實驗報告に曰く

胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の内、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峰博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

醫學博士栗本東明氏の實驗報告抄錄

高峰博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の効力を有するとは業に旣に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すると共に此種の患者に每に之れが服用を勸告する者なり

錠劑粉末各大小容器入各地藥舖にて販賣す模造品あり必ず高峯氏タカヂアスターゼと乞御指定。實驗報告集は無代進呈

一圓五十錢以上

改良樋箱

便器類陳列專賣店

水盤 殺掛 瓦水潑

尙⊕京橋銀座壹丁目西裏通り⊕小柳陶器裏店諸國陶器類廉價販賣京橋勸業場内より路通あり縱覽御隨意

衛生便器改良樋箱 發賣元⊕小柳商店 電新千七十二

◉市内は何方にても物品御屆申上べく候也◉

少年新聞 紀念 第七號 天長節號

一部 參錢五厘 郵稅五厘

毎土曜日發行 十一月三日第七號

少年新聞は嶄新なる四色刷の一大少年新聞にして學藝欄、文藝、雜報、繪畫皆著名なる大家の筆になり初號發刊以來滿都の喝采湧くが如く賢くも華頂宮殿下より直ちに每號御愛讀の榮を賜ひ市内各小學校長諸氏よりは知育上趣味上完備遺憾なき少年讀物として賞讃購讀を受け殊に十一月三日第七號天長節號は實に壯麗なる新聞紙空前の印刷物にして全都先を爭ひ豫約を申込むの盛況を呈せり願くば御一覽の上御評價を乞ふ

三月分(十三部)前金五拾錢半年分(廿六部)同九拾五錢一年分(五拾二部)同壹圓八拾五錢以上(郵稅共)

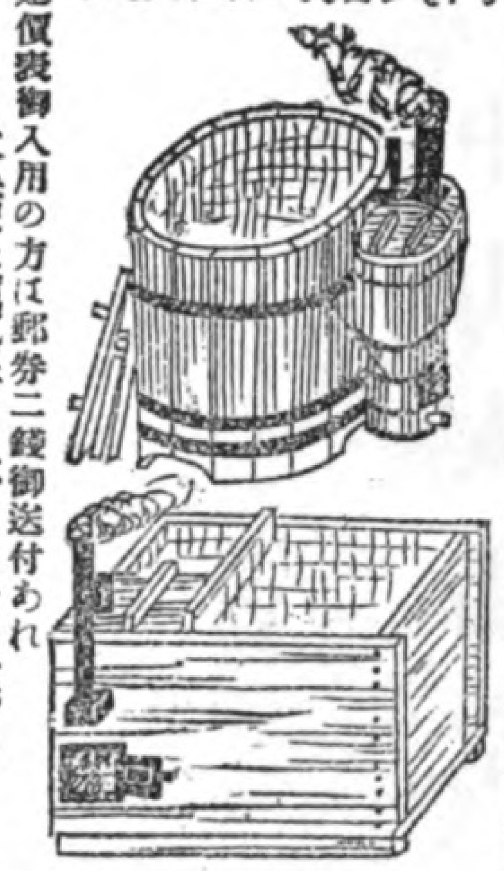
發行者 東京淺草須賀町貳 少年新聞社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第五回博覽會賜褒賞

同式据風呂機罐

◎定價表御入用の方は郵券二錢御送付あれ



◎湯屋温泉用釜◎料理店理髮店用湯風呂◎豆腐箱

製造　日本橋區蠣殼町二丁目十五番地　名和商店

販賣元　神田區和泉橋通松永町十八番地　電話浪花千百七十七番　名和支店

めぐすり

婦人洋服地並袴地帽子及小間物一式販賣仕候

其他婦人洋服裁縫

東京市麹町區麹町貳丁目

八木屋號　大國市藏

(電話番町七四二番)

最上醤油元祖

上十（商標）

釀造元　下總銚子町　濱口儀兵衛

荷扱所　東京北新堀七番地(電話浪花二五九四)　濱口支店

○宮内省御用達也

○開業二百六十二年

○品質の吟味嚴重也

○風味他品に超絶す

○日本一の釀造高也

大阪西長堀南通一丁目電特(西二〇〇五)　濱口出張店

壜詰　最上清酒

大日本優等清酒

世界長

御進物用は美麗箱入

世界長は内務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり

世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり尚殺菌しあれば夏季腐敗の憂ひ毫もなし

壜詰　一升入　四合入　貳合入　一合入の四種

發賣元　東京日本橋區堀江町四丁目(通稱てりふり町通り)　高橋商店　電話浪花一五六一番

眼科專門　診察時間午前七時より十二時迄午後三時より五時迄

神田區連雀町十八番地郵便局前

ドクトル宇良田唯子

▲每月第一日は診料藥價共無料

女俳優マダム川上貞奴　榊園みやぎ

色を白く艶を出し顔の小皺をのばす西洋薄化粧料洗粉

ヤッコ

●定價一箱廿錢全國送貨四錢三箱美麗函入五十五錢同送貨十錢(此箱入には四洋男女化粧法の秘傳をくわしく書たる美本を添ゆ)

カール

毛を良くしくせと縮毛を直す東髮島田丸まげとも髮形をよくす

●定價七袋分入廿二錢全國送貨四錢三袋入十二錢一袋入五錢同送貨二錢

東京神田區御成道田代町九番地　ヤッコカール日本一手發賣元

地球堂　田中丹治

●ヤッコ。カールとも全國有名小間物店賣藥店に賣捌あり若し無くば代價へ送貨を添へ發賣元へ注文すれば急送す

瓦斯引用の大御便利

燈火用　煮燒用　煖爐用　機關用

(瓦斯の取附費用(材料共)總べて申受けざるとに改め「ランプ」代は御自辨と金九十錢以上御好の品を取附け可申又瓦斯一燈に付)

(七輪、西洋料理器、湯沸器等は御望に依り月賦にて最も割安に販賣可仕瓦斯煖爐は別に損料貸の便法を設け低廉の料金にて御貸渡可申上候)

(機關用は「メートル」の位置迄の取附費用を申受けず又機關は御便利の爲め英國製最優等品を三ヶ年迄の月賦にて最も割安に販賣可仕候)

●御申込は電話、はがき、口頭にて御通知次第係員出張可仕候

明治三十九年十一月

神田區錦町三丁目

東京瓦斯株式會社

日本横濱市

金丸銃砲店

振替貯金口座四七一番加入　正價表及鳥獸猟込紙郵呈

幼少年御婦人等の家庭用空氣銃射的銃等を始めとし青年大人紳士諸君の旅行護身携帯用自働拳銃射的銃等何れも英米獨佛製最新て精巧完全なるもの各新式各種類に捗り漏れなく取揃へ置候

正價表は御一報次第郵呈仕候

振替貯金拂込用紙は何枚にても郵呈仕候全國何れの地に御住居の方にても横濱本店にて實價買取同一の便法あり

詳細は御尋に對し敏速御答可仕候

カメリヤ洗粉

カメリヤは時代の要求により生したる最新最良の洗粉なり香氣爽快にして色を白くし皮膚を艶麗ならしむ

定價　瓶入十二錢　袋入五錢　小袋三錢

發賣元　小林富次郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉新聞を見る婦人にして未だクラブ洗粉を使はれぬ人が在るでしよか？
◉信用ある化粧品屋に未だクラブ洗粉を賣られぬ店が在るでしよか？
◉常用貴婦人令孃諸氏の需用數により算出せば已や卅八萬人以上となれり
◉九月一日迄にクラブ洗粉の販賣店は各地を集めて數千軒の多大に上る

帝國化粧品俱樂部
總代理店　中山太陽堂

（ラクダ印）

（麝香石鹼）ラクダ印麝香石鹼は高貴なる麝香に愛すべき**ミレ**の香料を多量に含む故一度使用せば其香氣身体は元より手拭、タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至るまでうつり香いたし**五日間**は飯部としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる一大**特點**を有す

◉（定價大形廿錢・小形拾錢）（熱心勉强なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり）

近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意

東京本石町三丁目十八番地　労野藥種問屋　**井上太兵衛**

婦人藥王　**中将湯**

子宮病　血の道
さん前　產後
のぼせ　頭痛
腰足冷込
下腹痛み
月經不順
白血　赤血
其他婦人病
一切の特効藥

定價　三百分二十錢　百分十五錢　二百分八十五錢　壹週分廿錢

東京日本橋區通四丁目
本鋪　津村順天堂
支店　大阪堺筋大寶寺町南入

第三回新學期開始

◉**會員大募集**　目下入會の最好機

▲事情があつて高等女學校に入る事が出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の敎育を完全に正則に授けます

▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません。本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いやうにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を每號附錄とします

▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で且つ敎育に充分經驗のある方のみです講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です

▲本會講義錄は右に述べし通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都會一ヶ月の遊學費で優に全期を終る事ができます。

大日本淑女學會

高等女學校程度の講義錄發行

批評一斑

▲中央新聞評　講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也
▲每日新聞評　米國の通信敎授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり
▲二六新聞評　高等女學校の全科程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり
▲日々新聞評　講義は總べて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり
▲都新聞評　講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を拓き得可し
▲報知新聞評　講義錄多しと雖も實益と趣味と併て有する事斯くの如きは稀也

上掲の批評を御覧にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲規則書▼端書にて申込あれば直に郵送す可し

◉東京神田南甲賀町　**大日本淑女學會**（電話本局三千四番）

季節向き新柄物漏れなく取揃へ店內一面に陳列致し置候間御來觀被成下候樣奉希上候
地方よりの御註文は御書面にて御申付被下度く即日小包郵便を以て御届け可申上候尙ほ註文御案內書は御一報次第呈上可仕候

三越呉服店

東京日本橋通駿河町

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麹町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局（特）三、三〇〇番　四一番　一三七番　一〇二番
資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一各種の信託事務
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、當座預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番
定期預金　六ヶ月以上　年五分五厘
當座預金　百圓に付日歩　八厘
特別當座預金　同日歩　壹錢壹厘

東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋　三一五番　三三〇番　一九三番
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花　一九〇一番　三二七四番　三五〇八番
資本金千八百萬圓
一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日歩七厘以下
一特別當座預金　同　壹九錢

スコット乳菓
小兒ノ發育期ニ用ユレハ其効驗ノ最モ著明ナルヲ證スルモノナリ
說明書ハ橫濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳菓部ヘ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店橫濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

◎牛豚肉販賣及
西洋料理◎
品質佳良の肉類廉價に販賣候
配達は迅速に且つ正確に致候
滋養と風味の西洋料理調製候
西洋料理出前は格別相働き候
米店は精撰の白米廉價販賣候
御注文は電話又は葉書で願候
小石川表町廿二番地　電話番町六五九　西川本店
本郷區駒込東片町五番地　電話下谷三二七一　西川支店
小石川表町十一番地　電話番町一四六一　西川洋食店
小石川表町十八番地　米穀商　西川嘉門

袴乃親玉

東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店
電話浪花二八五九番
小賣部
本郷區本郷五丁目
美濃磯本郷支店
電話下谷二四一五番
淺草區諏訪町
美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町
美濃磯佐内町支店
神田區小川町
美濃磯神田支店
深川高ばし際
美濃磯支店
芝區新櫻田町
小田商店
牛込區神樂町一丁目
伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目
伊澤支店

營業品概要
○各種時計類附屬品
○双眼鏡及アルズム鏡
測量用諸器械
製圖器及繪具
氣象觀測器械
貴金屬美術品
東京銀座四丁目
服部時計店
電話新橋長七一四、一二三〇

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花　四四二一番　四五一二番
預金利子
定期預金　六ヶ月以上　年五分
當座預金　百圓に付日歩　八厘
別口當座　同日歩　壹錢
全國送金手數料
其他銀行一般の業務取扱便宜を計る

男女 新形帽子各種着
正札附陳列場
西洋小間物
帽子各種
婦人用小間物
中久商店
東髮用具
内外化粧品
玩具文具
東京神田小川町防通り
裏神保町一番地
◎五二會階下東京の部に多數の新品出品陳列仕置候

御半ゑり處
[illegible]
京橋銀座一丁目 木村屋

醫院案内
院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保德太郎
婦人科產科榊病院
東京麹町三番町卅三（電話番町三九五）

内科小兒科に特 呼吸器病
ドクトル 川瀨元九郎
麹町はやぶさ町二十八番地
電話番町八二二番

水原產科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八百〇〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立生婆學校の設あり

婦人科 小兒科專門 午前宅診 午後往診
東京市麹町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

小兒病診療 宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
電話下谷七一八番

院長 醫學士 烏山南壽次郎
烏山内科院
午前診察 午後往診
京橋區銀座町十一番地
電話新橋千七百四十六番

產科婦人科專門
ドクトル 樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
二各科 診察從前の通
芝愛宕町
新二六四
同二六二〇
東京病院

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に脳脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院

第廿五回 十一月一日ヨリ醫士ノ爲ニ開ク
東京日本橋區濱町參丁目七番地
產科婦人科學講習
楠田病院教室

内科一般 午前宅診 午後往診
東京神田區美土代町三丁目十七番地
電話本局貳千九百七十番
板垣亨

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗用ワッセル

◎此ワッセルは油じみあか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◎用法は湯一升に二勺(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは(拾貳号)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一勺五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價 拾貳号入 金拾五錢 袋入二錢　六号入 金八錢

芳香御肌洗粉ワッセル

◎此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢　參拾錢 三錢　拾七錢

洗濯製ワッセル日本一手販賣元 肌洗ひこ芳香ワッセル製造元

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二

三友商會

冬物輪着

◎新着英國製

◎更紗各種

◎小兒上衣

羽根フトン

◎ボアー(ネグレット)

◎婦人、小兒用帽子

◎キヤンバス、及ビ

◎アイスウール各色

◎肩掛、長卷、膝掛

◎旅行用化粧道具

◎外西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目

伊勢與 三枝小賣店

電話新橋一三九二七番

煉香油 パール

貴婦人用　紳士用

パールハ學術的最良ノ煉香油ニシテ四季ニ適シ毛髮ヒゲヲ保護養生シ凡テノ惡臭ヲ去リ愛スベキ香氣ヲ有スル世界有數ノ逸品ナリ

發賣元 東京八丁堀町 平尾分店

商標 登録

羽おり紐 華しん

市内ハ御用命ノ節電話一報次第伺候ス

本店 本石町 佐竹組紐舖

電話浪花三五六

定價表ハ御申越次第呈送仕候

補血良劑 パール無臭肝油

補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず

飲用に適すに香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目

合名會社島久商店

電話本局特四一九〇一　電話本局三一八

愛國婦人記者 手島益雄著

理想の町村

本書は著者が專ら研究せる家庭問題を基礎とし町村の自治を發達せしむるの目的を以て執筆せるものにして「如何なる妻を娶る可きか」「如何なる夫を擇ぶ可きか」「夫婦關係は如何に定む可きか」と云ふに筆を起して家庭、教育、衛生、宗教、社會、產業、娛樂、組合、官廳等の各部門に說き及ぼすに最も平易なる言文一致の文章を以てし猶總傍訓を附し數葉の繪畫をも加へたれば婦人と雖も一讀自治の精神を了解するに難からず實に本書は自治の根源たる農家は素より一般の家庭に無くてはならぬ良書なり

凡二百ページ　定價金三十錢　郵稅金二錢　十一月廿日發行

發行所 東京本郷區東片町百十一番地 新公論社

取次所 東京麴町愛國婦人會內 愛國婦人發行所

各女學校 御用

附屬品幷に造花器械類一式

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地

天野卯兵衛

電話(長)浪花一六四三番

日本第一の大勸業場

(本場の特色)

◎あらゆる物品を最も嚴格なる正札附にて陳列販賣し御買上品は市內無賃で配達致します

◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

東京新橋角

電話新橋(一六五二 二二六一)

帝國博品館

金銀盃類

秋の月にも春の花にも盃ならして何んの樂しみかあらん殊に戰後功を論し賞を行はるゝにあたり祝盃として用ゐらるゝには又ふさはしき意匠の盃なかるべからずまた賞品として御授與せらるゝ盃は弊堂のものに限るへし

宮內省御用達

東京市下谷池の端仲町

玉寶堂

電話下谷一九六五番 特一二四四番

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂

神田三河町 博報堂

京橋區南紺屋町 一星堂

京橋區南鍋町 秀逸社

日本橋區上槇町 萬年社

日本橋區箱崎町 春風舍

京橋區宗十郎町 正路喜舍

京橋區日吉町 帝國通信社

同區彌左衛門町 同區南鍋町

京華社支店 廣告社

明治三十九年十一月三日發行(毎月五日二十日二回)

定價金三錢 一ヶ月三十六錢 郵稅不要廣告料一行金六拾錢

發行兼印刷人 山澤俊夫

編輯人 手島益雄

發行所 東京麴町 愛國婦人發行所

印刷所 秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十九年十一月三日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

岩倉公爵家の家庭

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN